

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドクト]

acueducto

La revista española en Japón

¥ 0

GRATIS/第13号

31-mayo-2013

www.acueducto.jp



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

特集

春祭りの都市、セビリャ

ESPECIAL: SEVILLA

スペイン留学セミナー



いつかスペインに留学してみたいな...と考えているあなたへ!
スペインの都市・学校・コース、滞在方法、費用、学生ビザ、準備方法などをスペインに留学経験のあるスタッフが詳しくご説明いたします。
是非お気軽にご参加ください!セミナー後、個人カウンセリングもご予約承ります。

【日時】1. 2013年6月15日(土) 14:30~
2. 2013年6月30日(日) 11:00~
(セミナー所要時間 約40分 - その後個別カウンセリング)

【場所】スペイン語教室アデランテ
〒530-0035 大阪府大阪市北区梅田2-5-8-2F

【お申込・お問合せ】有限会社ADELANTE / TEL:06-6346-5554

※ 参加ご希望の方は、必ず事前にお電話にてお申込ください。

www.spainryugaku.jp email:info@spainryugaku.jp



スペインフェア

2013

出展・協賛企業募集

【日時】2013年11月3日(日)
【お問合せ】06-6346-5554 (スペイン文化協会)



基礎からしっかり学ぶ!スペイン語レッスン
話せる楽しさを実感しながら、スペイン語を身に付けよう!

新規開講入門クラスのご案内(各クラス定員4名)

【一般コース 全12回/入門クラス】

(6月開講)

土曜日 11:30-12:20 2013年6月8日-8月24日

(7月開講)

金曜日 20:30-21:20 2013年7月5日-9月20日

教材費:1,890円 受講料:42,840円(分納可)

入会金 15,750円 OFF!! (2013年6月15日まで)

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじめての方でも安心してスタートできます!各クラス定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申込ください。

開講中入門クラスのご案内(新規受講生募集中!)

月曜日 18:30-19:20 火曜日 12:30-13:20

水曜日 20:30-21:20

こちらは、入門者向けに既に開講しているクラスですが、フォローアップ制度で、はじめての方でも無理なく受講できます。

新規開講コースの日程が合わない方や、その他の曜日や時間をご希望の方はお気軽にお問合せください。

また、学習経験者の方は是非一度レベルチェックを兼ねた無料体験レッスン(要予約)をお試しください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。

ADELANTEはスペイン語
スペイン語はADELANTE

【お問合せ】

スペイン語教室アデランテ 06-6346-5554



スペイン情報誌acueducto
定期購読のご案内

スペイン情報誌acueductoでは、定期購読をご希望の方に、送料をご負担頂き、ご自宅までお届けしております。ご希望の方は、右の4項目を明記し、ファックス、郵送、E-mailのいずれかでお申込みください。(お届けはお申込書提出・ご入金後となります。)

① 氏名 ② 電話番号
③ ご住所 ④ 必要部数

【お申込先】

1. 郵送の場合
大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館2F
有)ADELANTE 宛
2. ファックスの場合 06-6110-5122
3. E-mailの場合 info@acueducto.jp

【送料】1,200円(1年間:4号分)



Avanzamos

A1

www.
adelante
shop.jp

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8
千代田ビル西別館 2F
TEL: 06-6346-5554
FAX: 06-6110-5122
E-mail: info@adelanteshop.jp

本書は、初めてスペイン語に触れる方を対象とした入門者向けスペイン語テキストです。
個人授業、グループクラスの両方で使用可能。8課から構成され、A1レベルに相当する口答表現、文章読解、聞き取り、読解の4技能を伸ばしながら、2セメスター(1年間)かけて学習できるため、大学でのスペイン語の授業にも最適です。

カラフルな写真やイラストが多く使われており、スペイン語学習に自然親しむ事が出来るよう視覚およびコミュニケーションに重点を置いて作られています。このテキストの終了時には、完璧ではないものの、現在完了を使って過去を表現し、[ir + 不定詞]を使って未来を表すことができるようになります。



ESPECIAL 特集	5
春祭りの都市、SEVILLA セビリヤ、楽しさ溢れる街 / LA FERIA DE SEVILLA / マエストランサ闘牛場 / セビリヤの「異端審問マーケット」 / これから期待大!オレオトゥーリスモ / カテドラルとアルカサル / セビリヤが生んだ「音の風俗画家」 ~ ホアキン・トゥリーナ ~	
GASTRONOMÍA グルメ	18
マドリッド料理教室体験記	
ESPAÑOL スペイン語	26
はじめてのスペイン語講座 第13回 比較の表現について① / スペイン語講座(XIII) 現在分詞について	
VIAJE 旅	30
エコ・エスパーニャ(その3)「バルセロナのレンタサイクル」 / 日本スペイン交流400周年 日本と固い絆で結ばれた街、セゴビアで、桜の植樹	
VARIOS その他	34
ESPAÑA FOTO A FOTO - スペイン写真コンクール - / 西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介 / RUMBO AL SOL VOL.4 4月23日はサンジョルディの日	
FÚTBOL サッカー	37
スペインサッカーを巡る -3-	
LIBRO 本	38
新刊書籍のご紹介	
ARTE 芸術	39
チンチョン伯爵夫人(その2)	
NOVELA 小説	41
大海原 第3章	

ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第13号をお届け致します



En Europa, a finales del siglo XIX, España estuvo de moda. Especialmente Andalucía, la parte más meridional de este país, fue el centro de atención para mucha gente. “En la orilla del baluarte de Sevilla, el destino es la casa de Lirias Pastillas, el baile es seguidilla y la bebida es manzanilla.” En el primer acto de la ópera Carmen, Carmen canta así a José y de esta forma, los sentimientos del público vuelan a Sevilla. Esta ciudad llamó la atención no sólo a los europeos, sino también al resto del mundo, y Japón no fue una excepción.

Sevilla, la flor de Andalucía, cuenta con un sol ardiente y mucha pasión, y según las palabras de Seiryō Hamada, reconocido arqueólogo japonés que viajó por España en 1929, ésta es una ciudad “fiel, con mucho humor elegante y un ligero hedonismo”.

“El que no ha visto Sevilla no ha visto maravilla”. En este número os mostramos esta singular ciudad, Sevilla.

Shoji Bando
Director

19世紀後半、ヨーロッパでスペインブームがあった。なかでも南部アンダルシアはヨーロッパの人々にとって憧れの地となった。「セビリヤの砦のほとり・行く先はリリアス・パステリヤ亭・踊るはセギディーリヤス・飲むはマンサニーリヤ・・・」オペラ『カルメン』第一幕で、カルメンがホセに誘いかけるようにして歌いはじめると、ヨーロッパの人々の心はセビリヤに飛ぶ。しかし、セビリヤに魅了されたのはヨーロッパの人々だけではない。世界中の人々がセビリヤに魅了され、日本人もまたその例外ではなかった。

アンダルシアの華セビリヤは、太陽と情熱を纏うだけでなく、1929年にそこを旅した考古学者濱田青陵のことをばかれば、「忠誠にして、しかも上品な滑稽と、軽い気分の快楽主義とを、その特徴」ともしていたのである。

諺にいう、セビリヤを見ずしてマラビリヤというなかれ。今号のテーマは「セビリヤ」です。

坂東 省次

坂東省次 ばんどうしょうじ / Shoji Bando

京都外国語大学スペイン語学科長・教授。
京都セルバンテス懇話会代表。
専攻はスペイン語学、日西交流史。
近著に『スペインを訪れた作家たち』(沖積舎)がある。

スペイン情報誌 acueducto

Director:
Shoji Bando 坂東省次

Editor:

Alejandro Contreras
アレハンドロ・コントレラス

Maquetación y diseño:

Ayako Wakita 脇田 絢子

Colaboradores:

Yo Kawanari 川成洋
Kuniyoshi Nakai 仲井 邦佳
Kaname Ikemoto 池本 かなめ
Elena Contreras エレナ・コントレラス
Mikel Berradre ミケル・ベラデレ
Jesús Martín ヘスス・マルティン
Ángel Montilla アンヘル・モンティージャ
Misaki Ueno 上野 美咲

ADELANTE Co., Ltd

2FL. Chiyoda Bldg. West Annex
2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

有限会社アデランテ

〒530-0011

大阪市北区梅田2-5-8

千代田ビル西別館2F

Tel: 06-6346-5554

Fax: 06-6110-5122

email: info@acueducto.jp

www.acueducto.jp

本誌の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本誌の内容および広告に関しては、発行元の責任の限りではありません。



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会



www.facebook.com/acueducto.japon



@acueducto_japon

Colaboradores:



EDUESPAÑA



スペイン国旗グッズ

赤と黄色のコントラストが鮮やかな
スペインの国旗をモチーフにしたグッズ



1. スペインの国旗スプーン
¥ 380 - (税込)
2. スペインの国旗マグカップ
¥ 1,050 - (税込)



3. コック帽子
¥ 1,050 - (税込)

鉄製パエリア鍋

スペインの代表料理のひとつ、
「パエリア」。
専用のパエリア鍋で、
ご家庭でも楽しんで
ください♪



1. 鉄製パエリア鍋 28cm
2人用 ¥2,940 - (税込)
2. 鉄製パエリア鍋 32cm
4人用 ¥3,720 - (税込)
3. 鉄製パエリア鍋 36cm
6人用 ¥4,620 - (税込)

スペインのシンボルでもある牛を、
カラフルでポップなモチーフにした
TOROエプロン(大人用)



1. TORO エプロン A
¥2,730 - (税込)



2. TORO エプロン B
¥2,730 - (税込)

スペインの味をご自宅でも!
小さなものから大きいカスエラまで、
各種とりそろえております。



スペイン家庭料理の必需品!
直火可能な耐熱陶器

カスエラ CAZUELA

1. カスエラ 12cm ¥840 - (税込)
2. カスエラ 14cm ¥1,050 - (税込)
3. カスエラ 17cm ¥1,470 - (税込)
4. カスエラ 19cm ¥1,680 - (税込)
5. カスエラ 21cm ¥2,100 - (税込)

A タイプ

B タイプ

スペイン語誕生日カード



「お誕生日おめでとう」のメッセージをスペイン語で送ってみませんか? 動物のイラストが描かれたとても可愛いカードです。



お誕生日カード A-D
各¥350 - (税込)
【サイズ】19 X 13 cm
*封筒が付属しています

C タイプ

D タイプ

A



スペイン語 ポストカード

牛をモチーフにしたポストカードシリーズ。風車やフラメンコなどスペインらしいテーマが描かれています。

【サイズ】14.8 X 10 cm
各 ¥100 - (税込)

- A. ¡Feliz cumpleaños! (お誕生日おめでとう)
- B. Gracias (ありがとう)
- C. ¡Felicidades! (おめでとう)



B

C

お問合せ・ご注文は以下までお願いいたします:

有限会社ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F

TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

Email: info@adelanteshop.jp

御注文は、E-mail、Fax、お電話にて承っております。

その際、決済方法は、代金引換か銀行振込をご指定ください。

送料は全国一律280円がかかります。なお、1度のご注文で税込み8,000円以上ご注文いただいた場合、配送先1箇所につき送料を無料とさせていただきます。

ウェブサイトでは、更に多くの商品をご用意しております。是非一度ご覧ください。

アデランテショップホームページ: www.adelanteshop.jp



闘牛、フラメンコ、降り注ぐ太陽、白い家など、日本人の描くスペインのイメージそのものであるセビリャ。スペイン南部に位置するアンダルシア州の州都であり、また世界中から毎年多くの観光客が訪れるスペインきっての観光地でもあります。今号のacueductoでは、毎年、4月に行われる春祭り（フェリア）、闘牛、歴史や音楽のみならず、近年注目を浴びているオレオトゥーリスモ（オリーブの旅）まで、セビリャの魅力をたっぷりお楽しみ下さい！

特集

春祭りの都市、セビリャ

SEVILLA



セビリヤ、楽しさ溢れる街

Sevilla, ciudad alegre

La ciudad de Sevilla enamora por su gente, que es abierta y hospitalaria y que sabe disfrutar y compartir cada momento. Sevilla es historia, monumento y cultura, crisol de las civilizaciones que se asentaron junto al río Guadalquivir. Sevilla es tradición y modernidad, una ciudad con un futuro prometedor, lugar de encuentro, convivencia y tolerancia.

Somos el tercer destino turístico urbano de España. El buen clima, la rica gastronomía, la belleza de sus calles y rincones, sus tradiciones y el flamenco, que se siente a cada paso, atraen a gente de todo el mundo, como el samurái japonés Hasekura Tsunenaga, que allá por el año 1614 se sintió atraído por Sevilla llegando a ella a través de su río en una expedición única procedente de Japón. Su misión era llegar a Madrid para visitar al rey Felipe III, pero antes tenían que resolver ciertos asuntos en Sevilla, desde donde se gestionaba todo el negocio relacionado con las Indias Occidentales a través de la Casa de la Contratación y el Consejo de Indias.

Y que no tendrá Sevilla que parte de los miembros de la expedición se quedaron a vivir en una localidad cercana. Hoy en día, sus descendientes son todos aquéllos que llevan orgullosos el apellido Japón, por cierto muy común en esa localidad.

Como Alcalde de Sevilla, quiero animarles a seguir los pasos de sus antepasados. Sevilla les espera con los brazos abiertos para recibirles en una experiencia enriquecedora e inolvidable.

Son muchos los estudiantes extranjeros que eligen Sevilla para aprender o mejorar el conocimiento de la lengua castellana, pues la ciudad cuenta con una extensa red de centros especialmente dedicados a proporcionar una experiencia idiomática de calidad, única y diferente.

Sevilla se mantiene viva todo el año, con una continua oferta cultural, musical, deportiva y de ocio que invita a visitarla en cualquier momento, y descubrir en primera persona el verdadero atractivo que la ciudad encierra: en Sevilla nos encanta la gente.

Juan Ignacio Zoido
Alcalde de Sevilla

セビリヤの魅力はここに住む人々です。彼らは、開放的で、もてなし上手、そして一瞬一瞬を分かち合い、楽しむことを知っています。セビリヤは歴史、建造物や文化、そしてグアダルキビル川のそばに存在した様々な文明のつぼです。また、伝統的かつ近代的であり、出会いの場、共存と寛容が存在し、先が楽しみな将来性のある街でもあります。

スペイン第三の観光都市であるこの街を訪れた人々は、恵まれた気候、美食、素敵な街並み、伝統、そしてフラメンコを常を感じることでしょう。これらは世界中の人々を魅了しています。日本の侍、支倉常長も同様でした。ずっと昔、1614年のこと、日本からの使節団としてグアダルキビル川を通過してセビリヤへやって来た際、彼もまた、この街に魅了されました。彼の使命はフェリペ三世に謁見するため、マドリードに赴くことでしたが、その前にセビリヤでいくつかの事案を解決しなければならませんでした。それは、セビリヤが通商院とインディアス枢機会議を通して西インド諸島に関わる全ての取引を管理していた都市だったからです。

その後セビリヤの近くの町に使節団のうち何人かが留まりました。今日、彼らの子孫は皆誇りを持ってハボンという姓を名乗っています。そういえば、その町では非常に一般的な名字なのです。

セビリヤ市長として、私は皆さんに先人達のようにこの街を訪れることをお勧めします。セビリヤでは、皆様にこの街で豊かで忘れられない体験をして頂けるよう、心よりお待ちしております。

この街には、上質で他では出来ないような留学経験を提供する教育機関が多く存在しています。それ故に、セビリヤは大勢の留学生から、スペイン語を学び、上達させるための留学先に選ばれています。

セビリヤは文化、音楽、スポーツやレジャーなど数多くのイベントで一年中活気づいています。是非、この街を訪れ、自分自身でこの街の魅力を発見して下さい。セビリヤ、私たちは人々が大好きなのです。

セビリヤ市長
フアン・イグナシオ・ソイド



¡VAMOS A CONOCER LA CIUDAD DE SEVILLA!

セビリヤの街を知ろう！

© Mapa y fotos cedidos por
la oficina de turismo de Sevilla

ESTACIÓN DE
SANTA JUSTA
サンタ・フスタ駅

LA CALZADA
ラ カルサダ

EL FONTANAL
エル フォンタナル

LA MACARENA
ラ マカレナ

BASÍLICA DE LA MACARENA
マカレナ教会

BARRIO DE SANTA CRUZ
サンタ・クルス街

CENTRO
セントロ

セビリヤ市民からの信仰が
厚いマリア像が奉られている
マカレナ教会。街の中心から
少し外れた場所にあるが、宝
物殿も併設されており、足を
伸ばしてみる価値あり。

旧ユダヤ人街。
白い壁の家並みや、花で溢れ
る美しいパティオなど、のん
びりと散策するにはピッタリ
のスポット。レストラン、バル
なども多くある。

世界で第3番目の大きさを
誇る、スペイン最大のカテド
ラル。聖堂内部には、コロン
ブスの墓もあり、見所満載。
ヒラルダの塔に登って、セビ
リヤ市内を眺めるのも良い。

闘牛の本場、セビリヤにある
マエストラサ闘牛場。
内部には闘牛に関する博物
館もある。春祭りの時期には
十数試合にものぼる闘牛興
行が開催される。

SAN BERNARDO
サン ベルナルド



EL PROVENIR
エル プロベニル

1929年のイベロ・アメリカ博覧会の会場として建設された半円形のスペイン広場。スペインの各県にまつわる美しいタイル画を見て回るだけでも楽しい。



アルカサルは14世紀後半に建築された、ムデハル様式の宮殿。イスラムの影響を強く感じる宮殿内部の装飾も美しいが、アラブ風のエキゾチックな庭園も必見。



UNIVERSIDAD DE SEVILLA
セビリヤ大学

PLAZA DE ESPAÑA
スペイン広場



様々な種類の植物が生い茂る緑豊かで広大なマリア・ルイサ公園。観光客だけでなく、セビリヤ市民の憩いの場。スペイン広場はこの公園の内部にある。

REALES ALCÁZARES DE SEVILLA
アルカサル

ARCHIVO GENERAL DE INDIAS
インディアス古文書館

CATEDRAL DE SEVILLA
セビリヤ大聖堂



スペインとその植民地の歴史に関する重要な資料が収蔵されているインディアス古文書館。コロンブスの直筆原稿なども収められている。1987年に世界遺産に登録。

TORRE DEL ORO
黄金の塔



FERIA DE ABRIL
春祭り会場

毎年4月に約1週間行われるセビリヤの春祭り。美しい衣装に身を包んだ人々が、歌い、踊って楽しむ、アンダルシアらしい華やかな行事が行われる会場。

PLAZA DE TOROS DE LA MAESTRANZA
マエストランザ闘牛場



グアダルキビル川沿いに佇む黄金の塔は、その昔セビリヤへ侵入する船の見張り台として使われていた。現在では、海の博物館になっている。

TRIANA
トリアナ



LA FERIA DE SEVILLA

セビリャの春祭り

La feria de Sevilla es una fiesta de toda la ciudad. Durante una semana, en el mes de abril, todos los años los sevillanos viven un ensueño en el que se mezcla el deseo de disfrutar de los sentidos a través del baile, el cante, el vino... con el encuentro con los amigos y la familia. Es una fiesta para todas las edades y clases sociales y con una marcada presencia de los roles masculino y femenino.

La feria, que tiene su origen en un mercado feriado de ganado, propio de una sociedad agraria, ha ido evolucionando hasta convertirse en una celebración masiva y en una seña de identidad de la ciudad de Sevilla. Probablemente esta raíz rural se refleja en la presencia activa que tienen los animales en la feria. Durante ésta se exhiben las familias con los caballos y carruajes de tradición rural y también se celebran las corridas de toros en la Maestranza.

Otra peculiaridad de la fiesta es su marcado carácter efímero. Se monta una pequeña ciudad, con sus casetas de lona, que son las casas en las que se recibe a amigos y conocidos, sólo para seis días. En la feria se recupera lo más antiguo: la tradición del cante, del baile, de las vestimentas, del vino y la comida compartida con los amigos, con lo más actual: un ambiente trepidante en el que nada invita a la pausa y en el que todo facilita la conversación chispeante, la expresión corporal del baile flamenco, el lucimiento de la simpatía y el carácter abierto y alegre de los andaluces.

Todo este escenario festivo aparentemente espontáneo y permisivo está sometido a un protocolo muy estricto en el cual cualquier falta de cortesía o presentar un estado de embriaguez es rechazado por la comunidad. En definitiva, una fiesta ritualizada y anárquica, popular pero también aristocrática, la misma y distinta cada año, como la propia vida.

María José Valpuesta

セビリャの春祭り(フェリア)は毎年4月に一週間にわたり、町を挙げて催されます。人々は友人や家族と会い、踊り、民謡(カンテ)、ワインを通して楽しみたい、感動したいと願いながら過ごします。この祭りは全ての年齢層や社会階層のためのもので、伝統的な衣装を身にまとった男性や女性の姿が目にとまります。

春祭りは元々、農業・牧畜社会に特有の家畜の見本市が起源でした。それが徐々に変化し、セビリャらしさを特徴づける大規模な催しになりました。おそらく、春祭りの中で動物の存在が目立つのは、祭りの起源によるところが大きいでしょう。祭りの間、町の人は馬や、伝統的な馬車に乗り、またマエストランサ闘牛場では、闘牛が行われます。

この祭りのもう一つの特徴は、「つかの間の町」です。会場内には、布で作ったカセタ(caseta)という仮設小屋でできた町が現れます。カセタは、友人や知り合いを招待するために6日間だけ設置されます。祭りでは昔のもの(伝統的なカンテ、踊り、衣装、ワイン、食事)が再現されます。その中で友人と絶え間なくおしゃべりをし、フラメンコを踊り、アンダルシア人の陽気で開放的な性格が人々を魅力的に輝かせ、会場を熱狂の渦で満たします。

この祭りの雰囲気全体が一見自然発生的で寛大に見えますが、コミュニティによる非常に厳格なしきたりにより、いかなる無礼な振る舞いも酔酩も許されていません。つまるところ、フェリアは気ままなようにみえて習わしのある、庶民的であると同時に上品な祭りです。毎年同じように年々形を変えるこの祭りは、まるで人生そのものを表現しているかのようです。

マリア・ホセ・バルプエスタ



María José Valpuesta

マリア・ホセ・バルプエスタ

1955年セビリャ生まれ。歴史学教師。現在は、セビリャのサン・フアン・デ・アスナルファラチェにある、セベロ・オチョア高校の副校長である。



1. Portada (ポルターダ)と呼ばれる入場門。2. 春祭り会場に立つ仮設小屋、Caseta(カセタ)。3. 2013年の春祭りのポスター。デザインは毎年変わる。4. クラシックな衣装に合わせたヘアスタイルも美しい。5. 色とりどりの衣装に身を包んだ女性達。形も色も様々で、見てただけで華やかな気分になる。6. 会場内では、馬や馬車に乗った人が多く見受けられる。7. 会場にはCasetaが立ち並び、たくさんの人が行き交う。さながら一つの街のようだ。

マエストランサ闘牛場



満員のマエストランサ闘牛場。緊迫した空気が流れる

セビリヤには、2つの重要な祭がある。一つは、セマナ・サンタ〔宗教祭〕で、もう一つはフェリア・デ・アブ ril〔春祭り〕である。

春祭りには2つの重要な会場があり、一つはロス・レメディオス地区の隣にあるフェリアの会場、あと一つは春祭り闘牛祭のマエストランサ闘牛場である。セビリヤは、春祭りの期間中、十数試合の闘牛興行とセビリャーナ踊りの街と化するのである。

普通、闘牛場の持ち主は、市等の地方自治体で、興行主が入札で落として興行権を獲得し経営するのである。しかし、国内に数箇所Real Maestranza de Caballería(王立騎士協会)が闘牛場の持ち主と言うところがある。セビリヤ、ロンダ、グラナダ、バレンシア、サラゴサの闘牛場などがそれぞれである。収益は当然、地方自治体のものにならず、王立騎士協会のものとなる。

王立騎士協会の歴史は古く、レコンキスタ時代の頃、貴族が戦争のためにより良い騎馬術・武器術を習得するために設立された、貴族のための教育協会であった。イスラム教徒との共存共栄の時代が続くと、この協会も廃れたが、セビリヤでは1670年、カルロス2世の時代に騎士道が再び甦って、貴族のための騎士協会が設立された。

1730年、フェリペ5世の許可により、騎士協会は、現在の闘牛場の近くに木造、長方形の自らの闘牛場を建設した。1763年には Palco del Príncipe (王子のバルコニー) と言う、王家の特別観賞席が作られた。その後、再三再四の改築を余儀なくされて、1881年には建築家、フアン・タラベラによってバロック風の現在の闘牛場が完成することになった。幾度も造り直しを重ねたため、闘牛場は正確な円形ではなく、どちらか言うと卵型のいびつな円形である。収容観客席数は約12,700人である。

1965年より、春祭り闘牛祭が主催され、多くの最優秀闘牛士がでて、闘牛界トップに登りつめた。中でも、地元闘牛士、Curro Romero〔クーロ・ロメロ〕は、神話化され、Curroの春祭り、春祭りのCurroと呼ばれた時代があった。普通、良い演技で、耳を2枚切ると、Puerta Grande〔大門〕から、肩車で闘牛士が担ぎ出されるのだが、ここセビリヤでは、最低3枚で、大門ではなく、Puerta del Príncipe〔王子の門〕から肩車で出るようになっている。なお、Real Maestranza de Caballería de Sevilla の名誉会長は、現国王、フアン・カルロス1世である。

榎本和以智



Puerta del Príncipe〔王子の門〕
この門から肩車で出るとは多くの闘牛士の夢だ



榎本和以智

えのもとかずいち /
Kazuichi Enomoto

1948年東京生まれ。
中央大学文学部中退。1968年より数年の無銭旅行後、1974年よりスペイン在住。日本食堂、貿易会社等を経営現在に至る。著書に、日本人には分からないスペインの生活(南雲堂)、現代スペイン語俗語慣用語集(南雲堂フェニックス)、男と女のスペイン語会話術(TLS出版)などがある。

セビリアの「異端審問マーケット」

セビリアの市街地からグワダルキビル川にかかっている石造りの堂々としたイサベル2世橋（通称、トリアナ橋）を渡り切った右側に、大きな露店の市場がある。主に、食糧品、日用品などが売られている、喧騒と市場らしいにおいのする、実に庶民的な市場であった。だが名前は、何故か、実に厳めしく「Mercado de la Inquisición（異端審問市場）」という名前で、また、グワダルキビル川岸からの5、6段のステップを上りこの市場へ向かう川岸の小道も「Callejón de la Inquisición（異端審問小径）」となっていた。

どうして、こんな名前が付けられたのだろうか。

そういえば、セビリアにスペイン初の異端審問所が設置されたのは、1478年であった。イサベルとフェルナンドの両王によるレコンキスタの完成とスペイン統一（1492年）よりも、14年も前のことであった。異端審問官から告発されれば、容疑者は身柄を拘束され、財産も取り押さえられ、裁きの場で己の身の証を実証しなくてはならなかった。勿論、取り調べの段階で過酷な拷問による自白も日常茶飯事のことであった。被告が自らの力で無罪放免を勝ち取るのはほとんど不

可能であつたらう。事実、1480年から1516年までの36年間で、異端として、6,000～7,000人が火刑で命を落としたと言われている。しかもこの制度が実際に王令で廃止されたのは、なんと1834年であった（1813年に廃止されたが、翌年復活した）。それにしても、「愛の宗教」といわれるカトリックがよくもこのような理不尽で無慈悲な制度を続けたものだ。

ところで、1992年の「スペイン・イヤー」に、この市場の少し上流が「セビリア万博」の会場となった。主催者側のセビリア市当局は、この市場が余りにもみすばらしいために（と、私は思っている）、撤去することにした。たしか、トリアナ地区に移転したはずである。そして実際に撤去してみると、地面の下にかなりの数の個室のようなものが見えてきたのだ。果たせるかな、この市場は、名前の通り、異端審問所だったのだ。この個室は、寄り添なき被告たちが拘留されていた場所に違いない。

現在は、全くこざいな市場となっている。時の流れというものなのだろう。

川成洋（法政大学名誉教授）



異端審問小径の入口



Callejón de la Inquisición（異端審問小径）

現在は市場の下、異端審問所跡はCastillo de San Jorge（サン・ホルヘ城）として、異端審問所の歴史を紹介している



川成洋

かわなりよう / Yo Kawanari

1942年札幌で生まれる。

北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士過程修了。

社会学博士（一橋大学）。法政大学名誉教授。

スペイン現代史学会会長。

主要著書

『青春のスペイン戦争』（中公新書）、『スペイン戦争—ジャック白井と国際旅団』（朝日選書）、『スペイン—未完の現代史』（彩流社）、『スペイン—歴史の旅』（人間社）ほか。

これから期待大!オレオトゥーリスモ



オリーブの木々に迎えられながらオレオトゥーリスモが始まる



オイル色は品質に関与しないため公式テイスティングカップは青色だ



農場内は映画のような景色が広がる



博物館にて搾油機械の歴史認識を深める



フレッシュなかおりに包まれる
できたてほやほやのEVOO

アンダルシア州はオリーブオイル世界一の生産地。マドリッドとセビリャを結ぶ新幹線から望む景色はアンダルシア州に入ると一変し、果てしなく続くオリーブ畑が印象的だ。スペインは世界遺産の宝庫であり世界各国から大勢が訪れる観光国であるが、ユニーク志向から近年注目されているのはアグリツーリスモである。ワインの世界では4,5年前からエノツーリスモが導入され、ワイナリーでのんびりと贅沢な時を過ごす人々が増えた。

オリーブオイルの世界でもオレオトゥーリスモと称され、オリーブ畑や搾油所訪問、テイスティングを楽しむ観光が始まっている。セビリャ郊外に位置するある搾油所は、そのエキストラ・バージン・オリーブオイル(以下EVOO)の品質はもちろん、オリーブオイル文化の波及に注力している。そこではまず畑を訪問し、年間を通した季節ごとの木の成長、灌漑や収穫についての説明を受け、その後施設内の小オリーブ博物館で、搾油の歴史や工程を模型やビデオを観ながら理解する。搾油場では収穫期であれば直に搾油風景が見学できる。最後にテイスティングとなるが、EVOOはワイン同様その品種により味とかがりが異なる。セビリャで主に栽培されている品種はマンサニージャやレチンであるが、その栽培技術革新に伴いアルベッキーナも増えている。この搾油所では高品質のアルベッキーナとマンサニージャのEVOOがテイスティングできるが、興味深いのは味とかがりに欠陥のあるオイルとの比較であろう。この比較により本物のEVOOがオリーブの実から抽出したジュースであることがわかり、その栽培や収穫時の実の成熟度そして搾油工程が、作り出されるEVOOの品質に深く影響することが理解できるであろう。

このオレオトゥーリスモは約2時間となるが、ゆっくり滞在型となるとやはり郊外に位置するHACIENDA(アシエンダ/大農場)訪問がお勧めだ。

広大な農場内には昔の石臼の粉碎場、ピガと呼ばれる巨大プレス機、貯蔵陶器が完璧に保管されており、当時のスペインの生活を伺い



オリーブの実をすり潰していた18世紀の石臼



Prensa de Viga (プレッサ・デ・ビガ) の大きさに圧巻



ゴージャスな空間に滞在するチャンス!



農場中庭にある木もオリーブ!

ながらオリーブオイルと触れることができる。ここでのテイスティングが唯一無二の経験となるのは間違いない。こんな魅力的な歴史ある場所でリラックスした時を過ごすことは至福以上の何物でもないであろう。近郊には最新技術を完備する搾油所、テーブルオリーブ工場、ワイナリーがあり見どころ満載で飽きさせない。過去から現在に至るオイル製造方式の変遷も追える。

余談だが、筆者は2008年以降HP、ブログ(スペインの裏と表の食事情)、FBページ(オリーブオイルの全て)や専門誌等を通して、オレオトゥーリスモを含むオリーブオイル文化について日本語にて普及活動を行っている。スペインには、オリーブ畑を有する150市町村と10県議会が会員となっているAEMO(Asociación Española de Municipios del Olivo/オリーブ自治体のスペイン協会)という協会があり、年に1度優秀搾油所、ベストモニュメンタル・オリーブ樹、オリーブオイルの文化普及という3部門でコンクールを開催している。筆者は今回なんと最後の2012年文化の普及部門において2位を獲得した。この賞獲得後、全く存じ上げなかった関係者から続々と連絡が入ったこと、人々の筆者への接し方が急変したことより、この賞がどのくらい意味を持つのか判断できよう(笑)。

<http://municipiosdelolivo.wordpress.com/2013/04/02/premios-aemo-a-la-difusion-de-la-cultura-del-olivo-2013/>

また、後見人が必要で、年に一度の総会にてオリーブオイル文化の普及についてのプレゼンを行い全会員の承認を受けないと入会できないOlearum(オレアルム) <http://www.olearum.es/> という協会に入会できた。外国人初である。これは一重に今まで支えていただいた皆さまのおかげだと思っている。有難うございます。これからもご指導の程宜しくお願いします。

田中富子



テイスティングはリラックスした雰囲気



田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォワード、米通信機会社勤務後、2001年よりセビリヤ在住。

2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、食品輸出仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳、留学コーディネーター等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。

HP: www.creapasion.com/ / <http://spain.fc2web.com/>

オリーブオイルのエキスパートであるCREAPASIONクレアパシオンでは、オレオトゥーリスモの手配を行っています。また、スペイン料理やハモンカットレッスンの受講も可能。詳しくは、www.creapasion.comまで。

カテドラルとアルカサル

詩人でフランス文学者として広く知られた堀口大学(1892-1981)は、1914年7月から1917年1月までの約2年半をスペインで暮らしている。この間、大学は、アンダルシア旅行を企て、セビリヤ、グラナダそしてコルドバを訪ねている。

大学のアンダルシアの旅は、セビリヤで始まった。スペインといっても北部と中央部しか知らなかった大学にとって、スペインで最も輝かしい空の下に広がるセビリヤでは別世界に足を踏み入れた思いがあったようだ。

「さて私は、セヴィヤに就て、何を前にお前に語つたらいいだろう。南西班牙の美しいこの市は、今や只一円に美しい。

今日までかつて私はこんなに澤山な花と、薔薇とを見たことがない。それ許りか私は今日までこんな樂園を想像する事さえ出来なかった。」(「南西班牙から」)

アルカサルには美しい木々が生い茂り、遠くにはヒラルダの塔が見える

大学はこの美しい市で、まず大寺院を訪れる。今日、カテドラルの名で知られるこの大寺院は、奥行き170メートル、左右76メートル、高さ40メートル、ローマのサン・ピエトロ寺院、ロンドンのセント・ポール大聖堂に次ぐ規模をもち、ゴシック建築としては世界一の威容を誇る。建築技師が「後世の人が見て、おれたちが狂気人であったと云う様なものを立てよう!」(「南西班牙」)といって、この巨大な大寺院を建設したといわれる。

「この大寺院に入る時、人は己の斯くも小さく斯くも値なきことを感ずる。そして人は只呆然として、現在自ら感ずる所を云ひ表はす言葉を見出さぬ。真実それは「途方もない」と云うより他に言葉がないほどこの大寺院には偉大なるものがある。この点では私は世界中の人間が造営したものの中の唯一であろうと思う。そこには、見るものが然く多く、すべてを知りつくすには一年もかかるであろう。明朝私は礼拝に列しようと思っている。それは定めて、神々しくも亦尊大なるものであろう。」(「南西班牙」)

次いで訪れたのは、アルカサルである。これは「残酷王」の異名をもつペドロ一世(在位1350-69)の時代に、グラナダのナスル朝から呼び寄せられた建築家によって建てられたもので、ムデハル建築の粋をなす。ムデハルとはレコンキスタ(国土回復戦争)の進展のなかで、キリスト教世界に居残ったイスラム教徒のことである。彼らの文化水準はキリスト教徒のそれよりはるかに高く、彼らはキリスト教スペインの芸術におおきな功績を残すことになった。その傑作がカテドラルなのである。大学はなかでも庭園に魅せられ、「アルカサルを周る庭園はまことに天上樂園である」(「南西班牙」)といっている。

その後、大学は後ろ髪を引かれる思いでセビリヤを後にして、グラナダに向かった。

坂東 省次



上空から見たカテドラル



アルカサルの内部



坂東省次

ばんどうしょうじ / Shoji Bando

京都外国語大学スペイン語学科長・教授。

京都セルバンテス懇話会代表。

専攻はスペイン語学、日西交流史。

近著に『スペインを訪れた作家たち』(沖積舎)がある。

セビリャが生んだ“音の風俗画家” ～ ホアキン・トゥリーナ ～

魅力あふれるアンダルシアの中心都市、セビリャ。数々の名作オペラの舞台として、クラシックの世界でもおなじみの名前である。幌馬車が連なる賑やかなエル・ロシオの巡礼、名高いセマナ・サンタの聖体行列、トリアーナ地区のお祭り騒ぎ、グアダルキビル河畔にそびえるヒラルダの塔 —— そんなセビリャならではの情景を、音で生き生きと描いた作曲家がいる。

その名は、ホアキン・トゥリーナ (1882-1949)。「近代スペインを代表する作曲家」として、アルベニス、グラナドス、ファリャに続く重要人物が、セビリャ生まれの彼、トゥリーナなのだ。

トゥリーナは、当時のスペイン人作曲家の例にもれず、芸術の都パリに留学するが、20代の約10年間を過ごしたこの地で、大きな転機を迎える。

スコラ・カントルムに学び、評論家に受けのよい作風で音楽を書いていたトゥリーナは、ピアニストとしても活躍していた。1907年、彼はサロン・ドートヌワで、自作のピアノ五重奏曲をプログラムに入れた演奏会を行った。そこに聴きに來ていたのが、晩年の大御所アルベニスと、トゥリーナとともに「パリのアンダルシア人たち」と呼ばれ知られていた旧知のファリャである。アルベニスとトゥリーナは初対面だったが、音楽家同士なんていわば家族のようなもの。終演後すぐに打ち解けた3人は、お酒を片手に音楽談義を交わしていた。そのとき、アルベニスがトゥリーナの胸元をつかんで、こう言ったのである。

「君はああいう作品を書くのではなく、スペイン民謡、あるいはアンダルシアに基づいた音楽を確立するべきだよ。それが、セビリャ人としての君の役目ではないかな？」

この助言で開眼したトゥリーナは、自分の音楽の方向性をすっかり変えることになる。そのおかげで音楽家としての道が開かれたのだから、アルベニスの洞察力は鋭かった。—— やがてスペインに戻ったトゥリーナは、自国の音楽界のために力を尽くすのである。

もともと、スペインの音楽には、ダイナミックな歴史と人々の営み、そして彼らを育んだ風土のエッセンスが、他の西欧諸国よりも色濃く映し出されているようだ。「スペインの音楽家」としての自覚をもって創作する部分と、無意識のうちに入り込んでしまう血のなせる業のようなもの、そこに作曲家個人の感性があいまって、独自の音楽世界が出現する。トゥリーナの作品はモダンな感覚に彩られてはいるが、そこに現れるカトリック的な荘厳さ、イスラーム風の神秘性、ジプシー的な人間味などは、セビリャという町が彼に授けた、特別な贈り物なのかもしれない。

それを私たちは、時空を超えて、新鮮な状態で受け取ることができる —— 実際に手でつかむことはできないけれど、感性のアンテナで。それはある意味、「音楽」という形態でしか実現しえない、とても豊かな経験なのだ。

では・・・トゥリーナを聴きながら、しばしセビリャへ！

下山 静香



下山 静香 しもやましずか / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。文化庁派遣芸術家在外研修員としてスペインへ渡り、マドリッド、バルセロナで研鑽。スペイン各地に招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。ラジオ、テレビ番組での演奏多数、これまでに5枚のCDをリリース。現在、スペイン・中南米音楽を含む多彩なレパートリーと柔軟な感性をもつピアニストとして活発な演奏活動を展開。さらに執筆・翻訳・講演・トーク・・・とマルチにこなすユニークな存在として注目を浴びている。6冊の共著のほか、翻訳書に『サンティアゴ巡礼の歴史 伝説と奇蹟』（原書房）、校訂・解説を担当した楽譜にグラナドス ピアノ作品集、アルベニス ピアノ作品集（ヤマハミュージックメディア）がある。桐朋学園大学非常勤講師。JML音楽研究所にて「スペイン音楽ピアノ演奏講座」開講中。

Official Web Site サラバンダ <http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf> 
裸足のピアニスト・下山静香のブログ <http://ameblo.jp/shizukamusica>

◆コンサート情報◆

下山静香＜ピアノで旅する、魅惑のスペイン＞ 7月20日(土) 14時開演 武蔵ホール(入間市)

AGRADECIMIENTO ESPECIAL

今号の特集記事を編集・掲載するにあたり、セビリャにある語学学校、クリック・インターナショナル・ハウスにご協力を頂きました。この場をおかりしまして、深く御礼申し上げます。



CLIC INTERNACIONAL HOUSE SEVILLA

C/ Albareda, 19.
41001 Sevilla, España.
Tel. +34 954 502 131
www.clic.es
Email: clic@clic.es

CLIC INTERNACIONAL HOUSE CÁDIZ

C/ de las Acacias, 13.
11007 Cádiz, España
Tel. y Fax: +34 956 255 455
www.cadiz.clic.es
Email: infocadiz@clic.es



© Fotos cedidas por la oficina de turismo de Sevilla

マドリード 料理教室体験記



「アンドレスの料理クラスへ」

私が初めてスペインに渡った、今から30年以上前のこと。マドリードには料理教室というものはほとんど存在しなかった。調理師学校ではなくて短期でも受講できるところ、資格に関係なく料理を習うところという、昔風の小さな料理学校と、調理用品を売る店に併設された料理教室の二つだけ。言い換えれば「お金を払って料理を習いにでかけていく」という感覚そのものが、ほとんど存在しなかったわけだ。

当時の私は、「そうか、家庭料理というのは母から娘へと家庭で受け継がれていくもので、わざわざ習いに行くものではないのだなあ」と感心していたけれど、料理だけでなく「趣味のためにお金を払って何かを習う」という場所そのものが、当時のスペインにはきわめて少なかったのだ。カルチャースクールが群居する日本とは、随分事情が違う。

ところが現在のマドリードには、以前よりずっと豊富に料理を学ぶためのチョイスがある。ネット上にも様々な広告や案内が載っている。値段も決して安くはない。50ユーロから90ユーロというのは、スペインの物価から換算すると、かなり高いと言っていだろう。

そして教室の内容も、バリエーションに富んでいる。タイ料理、日本料理、特に「簡単なスシ」というようなクラスが方々にある。ペルー料理からカップケーキのクラスまで、そのチョイスの幅の広さは驚くほどで、スペインの食シーンもここまで国際的になってきたのかと感慨を新たにしよう。

そんななかで私は、ぜひ行ってみたい「キッチン・クラブ」という教室を見つけた。いかにも今人気のスクールらしく「タイ料理」から「日本料理」に至るまで様々なコースがあるなかで、一番人気のクラスのひとつが「アンドレスのスタジオ」というタイトルなのだ。かれこれ20年前から知っているシェフ、アンドレス・マドリガル料理を習えるのなら、ぜひ参加したい。



アンドレスは、私が料理雑誌のためにスペインのトップレストランの取材をして回っていた頃、私のお気に入りレストランのひとつ「オリブ」のシェフだった。この店のオーナーはフランス人で、フランス人だからこそスペインの食の魅力がどこにあるかに目ざとく注目した。そのキーワードとは「オリーブオイル」と「シェリー酒」である。

このレストランでは、料理を注文すると「オリーブオイルのカート」が来て、料理に添えるのにオリーブオイルを選ばせてくれる。そして常に10種類以上のシェリーを、詳しい説明とともに試すことができる。その店のシェフとして、まさに「地中海料理」という名前にふさわしいのびのびとした料理を作っていた若いシェフが、アンドレスだったのだ。

そのあと彼は、いくつかのレストランのシェフを務め、ミシュランの星もとりに着実にシェフとしての業績を積んできたのだが、ある時点で、「より自由な仕事の形態」とでもいうべきものに自分の道を見出したようだ。現在では、マドリードのいくつかのレストランのメニューをオーガナイズする、南米各国で料理指導をするなど、彼の活躍の舞台はより広がりにつつあるらしい。

ずいぶん昔から、「スペイン料理」とか「どこかの地方料理」という枠組みを嫌って、自由な料理の世界を築いてきたアンドレス。それでいて新しいテクニックを追うだけでなく、地に足のついた地道な料理を得意とする彼が、今何を目指しているのか、大いに興味をそそられる。早速ネットで問い合わせると、彼のクラスは定員が8名で、今月2回あるうちの1回はまだ申し込み可能だということで、早速ネット上で予約・申し込みを済ませた。

アンドレスはどんな料理を教えてくれるのか？ マドリードの最近の料理教室は、いったいどんな雰囲気なのか？ いくつもの楽しい疑問を抱えて私は、一日だけの生徒となるべくキッチン・クラブへと向かった。

「ちょっと危ない場所の、おしゃれなクラス」

この記事を読んで「私も参加しよう」と思う方のために、一言断っておこう。「キッチン・クラブ」がある場所は、決して品のいい場所ではない。私の主人の家族は「え、あんな場所に行くの？」とびっくりしたし、友人にも「夜は行かない方がいい」と言われた。当日タクシーに乗って行く先を告げると、運転手さんはミラー越しに私の顔をしげしげと見た。治安が悪いから気をつけろと言われるのはスペインでは日常茶飯事だから気にしなかったのだが、いざ通りに着いてみたら、皆の言っていた意味がわかった。昼の12時だというのに、狭い通りの両側に、次々と女性が立っている。「世界最古の職業」の女性たちだと一目でわかる。私はあわてて、タクシーの運転手さんに言い訳した。

「料理教室に行くので、その番地の建物の前まで送ってくださいね」

そんなハプニングがあったとはいえ無事に到着してみると、狭い間口の教室はガラス張り、とてもおしゃれな空間になっていた。ぼちぼち集まってきた生徒の面々を見ると、とりえず男性女性がおおよそ半々なのがわかる。年代もばらばら。生徒同士であいさつを交わしていると、アンドレスがやってきた。

「さあ、さっそく始めるよ。仕事はたくさんあるからね!」

配られたエプロンを身に着け、メモ帳やカメラを用意する間もないままに、我々はいきなりモダンなキッチンに配置されていた。

「君はキノコを刻んで。マリはアーティチョークを剥いて。あ、君はフォアグラの係だよ。家でやったことある?」

質問された若い女性があわてた様子で首を横にふる。

「いえ、私、家で料理したことないの。全部母が……。今日は見学くらいのもりで来たのよ。」

横にいるお母さんがうなづく。

「フォアグラなんて荷が重いわ、失敗したら困る……」

アンドレスは一笑に付した。

「そういう君がやってみるから面白いんじゃないか、さあさあ、始めて!」

あとで自己紹介したところによると、そのお嬢さんは検事局にはいったばかりで、司法試験の勉強以来、台所にはいったことはないと言う。その彼女は、フォアグラをソテーして生クリームで煮込むという課題に、司法試験なみの真剣さで取り組み始めた。

私はというと、大量のアーティチョークを剥いて茹でる作業で忙しく、そのあとはニンジンとパセリを刻む仕事も回ってきたし、パセリを刻む仕事もきた。

「まさか、こんなに働かされるとは思っていなかったわ」

とぼやくと、アンドレスがにやっとする。

「そうだろう? みんな、こんなに働かされるとは思っていない。ちょっと手伝って食べるだけ、くらいにね。でもここではガンガン料理するんだ! みんなで楽しもう!」

思ったよりがんばっているのは男性陣。ロシア人のがっしりした男性は、気が付いたら私より容量よく刻み仕事を終えている。今日が2回目だというテレビ局のディレクター氏は、丁寧にキノコをほぐしてソテーしている。そして、アンドレスの息子とその友人だというティーンエイジャー二人は、感心するほど良い手つきでズッキーニの皮を剥き、湯通ししている。次第に料理が形を表してくると、アンドレスが簡潔に説明しながら調理を進め、味を確認していく。

「さあ、ビールでも飲んで一息つこう」

立ったまま厨房で飲む冷たいビールの美味しいこと。なんだか我々がアンドレスのチームになって、プロとして料理しているような気分になってくる。この小気味よいリズムと緊張感は、このクラスの人気の秘密のひとつだろう。

「おいしければ、何料理でもいいじゃないか。楽しくやろう!」

最初にできあがった皿を各自で持って、テーブルで試食。ワインも出てくる。リゾットとほとんど同じ作り方で、パスタを使って作った一皿目だ。キノコの味と玉ねぎのソフリートがよく効いていて、濃厚だがペロッと食べてしまいうくらい美味しい。すると、ベルギー人だという女性が

「でもバターを使ってるし、これってスペイン料理じゃないわよね……」

と発言した。私も、これはイタリア料理だなあ、と内心同じようなことを考えていたのだが、アンドレスは笑いながら逆に彼女に問いかけた。

「なぜ、それがいけないの? これをオリーブ油だけで作ったら、こんなに美味しくないよ。チーズも、パルメジャーノのかわりにマンチェゴを使う? それって、一種の国粋主義だね(笑)。このクラスでは、僕が好きなのは何でも取り入れる。バターでも醤油でも、美味しければいいじゃないか?」

なるほど、そのあとのメインの魚料理にはアンドレス自作の「照り焼きソース」が使われていて、南米風のアボカドのグアカモレと見事に調和していた。

そして調理法は、スペイン料理の手法もあればイタリア風の部分もあり南米のものもあるのだが、いずれも無駄がなく合理的で、きちんと習得すれば素人でもできるような簡潔な方法を選んでいる。ここで習った料理を再現しようと思えば、家庭でもほぼ同じものができるだろう。

しかし参加している生徒たちの大部分は、あとで作る時の心配などしていない。このひとときを心からエンジョイしている。

次第に料理らしくなってくるできあがりを見る楽しさ。できあがったものを皆で感想を言いながら味わう楽しさ。アンドレスを交えての活発なおしゃべりの楽しさ。一緒に食卓に座った彼は、昔のスペインなら「食卓ではタブー」と言われた政治の話題まで含めて、自分が興味のあることをどんどん話題にのせ、議論していく。「料理をすることは自己を表現すること」という現代のシェフの理念そのままに、自分に正直な彼のスタンスは、私たちをも、既成概念から自由にしてくれたようだ。いつのまにか初対面の私たちは、長年の仲間のように議論を楽しんでいた。

下ごしらえができたデザートを完成させて出してくれたのは、息子のアンディーだった。手際もセンスもいい。アンドレスが、嬉しそうにコメントする。「実は、彼ももうすぐ自分でクラスを始めるんだ。自分の料理を教えたい、というんでね。」





自由人のアンドレスの生き方を見て育ったアンディーが、どんな料理の世界を築いていくのか、大いに楽しみだ。
「クリスマスには私が食事を作って、家族をびっくりさせようかしら」という検事さん。
「うちの家族は僕の料理を楽しみに待ってるから、今日のメニューで頑張るよ」というディレクター氏。

生徒たちはそれぞれ満足な面持ちで帰途に就いた。

料理という手段を通じて、相手とコミュニケーションする。楽しい時間を分かち合う。そんな意識を持った料理教室もあるということを、アンドレスは私に教えてくれた。東京の料理教室でも、この楽しさのいくらかを再現できたらいいな…。そんなことを思いながら、私は雑踏を抜けてマドリードの下町を歩いて行った。

キッチン・クラブは、今年は特にイベント年だとのことで、何人もの著名シェフを招いてのクラスが次々に予定されている。タイミングが合えば、トップクラスのシェフの話を聞いて料理を学ぶチャンスもあるかもしれない。また、1970年代からがんばっている調理用品店「アランビケ」のクラスも、一層充実してきているようだ。基本的なスペイン料理を学ぶという目的なら、ここが一番ふさわしいクラスの数が多くかもしれない。

さらには、「ア・プント」のように、書店が料理教室を開くという新しいユニークな形も人気を呼んで定着しつつある。ここでは、本の著者を講師に招くことができるというメリットが大きい。

マドリードに滞在しているあいだに、料理クラスに参加する。こんな新しい旅行のオプションが考えられる時代になってきた。ぜひ挑戦してみてほしい。但しそのためには、まずはスペイン語の勉強もお忘れなく。

文・写真 渡辺万里

INFORMACIÓN

[キッチン・クラブ KITCHEN CLUB]

住所: Ballesta, 8 Madrid. Tel: 91 522 62 63, 628 14 73 71.

Web: www.kitchenclub.es

[アランビケ ALAMBIQUE]

住所: Plaza de la Encarnación, 2. Madrid.

Tel 91 547 42 20, 91 559 78 58.

Web: www.alambique.com

[ア・プント A PUNTO]

住所: Pelayo, 60. Madrid. Tel: 91 702 10 41.

Web: www.apuntolibreria.com



渡辺万里

わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。

1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。

1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開校。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。

早稲田大学文化構想学部非常勤講師。

著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」(日本文芸社)、「修道院のうずら料理」(現代書館)、「スペインの竈から」(現代書館)など。

スペイン料理文化アカデミー <http://academia-spain.com>

〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2 TEL : 03-3953-8414

スペイン料理クラス、スペインワインを楽しむ会、フラメンコ・ギタークラスなど開催



そこにスペインの魂はあるのか？ フィデウアに懸けた思い。

日本人は老若男女、無類の麺好き。蕎麦やうどん、ラーメン、そしてイタリアで生まれ育ったパスタなど、あらゆる麺を自分たちの食文化へと取り込んでいった。スペインにもパスタ版パエリアともいえる「フィデウア」という料理がある。まだ、日本人の間では広く知られていないこの「フィデウア」を探求し、スペインから離れた地でも親しまれる料理にすべく、ひとつのプロジェクトが動きだした！

株式会社バハルボールが京都にて経営する4軒のスペイン料理店。そこで常に人気のトップを走っているのがパエリアだ。数あるスペイン料理の中でも、日本人の間でずいぶんポピュラーになったパエリアに新しい風を取り入れようと考えたバハルボールは、新たにフィデウアを加えてメニュー強化することを決めた。「今後、フィデウアに力を入れるために、現地で本物に触れ、調べられるだけのことを調べてほしい」。

そんな会社からのミッションを受け、スペインに旅立つことになったのは、これまでさまざまなパエリアをつくり続けてきたフィゴの三嶋達哉とエル フォゴンの石晶文のふたり。2013年を迎えて間もない1月、彼らは会社を代表してフィデウアで有名なバレンシアに向かうこととなった。

期限は2週間。その間にフィデウアの根っこをつかまなければならぬ。三嶋と石は現地の人の情報を集めながらバレンシア市内のレストランを回った。現地のフィデウアはとにかく量が多い。ふたりで1枚を食べるのも厳しい。お腹がはち切れそうになったら、市場を歩き回って食材をチェックし、お腹が落ち着いたらまた別のレストランでフィデウアを食べる。そんな日々が続いた。また、バレンシアのフィデウアは「魚介のフィデウア」が主流。店によってパスタの種類や具に多少の違いがあるものの、際立った特徴を持つフィデウアを出す店がほとんどない。一軒だけ「鴨肉のフィデウア」を出している店があったが、「これは当店のオリジナルで、トラディショナルなものではない」という説明を受けた。以前アンダルシアを訪れた時には「イカスミのフィデウア」を食べたことがあったが、それを出す店も見当たらない。どの店も「魚介のフィデウア」一種類だけで展開している。現地の人がそれに求めているものは何か？パエリアの米をパスタに置き換えただけの料理なのだろうか？三嶋と石は焦りに近い思いを抱き始めた。

そんな中、三嶋と石はバレンシアから少し足を伸ばしたナケラという街にある「ロシンニョル」という店を訪ねる。ロシンニョルはスペイ

ンのフィデウアコンクールで1位に輝いた店という情報を、会社から得ていたからだ。「ここでならフィデウアの何たるかをつかむことができるかもしれない」…三嶋と石の期待は膨らんだ。ロシンニョルで出てきたのは、またもや「魚介のフィデウア」。確かに旨い。しかし、パエリアのためではなく、フィデウアだけのために施されている工夫を、どうしても読み解くことができなかった。たまりかねた三嶋は自分が日本でスペイン料理をつくっている人間であることを明かし、旨いフィデウアをつくる秘訣を請うた。意外にもロシンニョルのシェフは気さくにコツを教えてくれた。ひとつはおいしいソフリート（旨味を出すために香味野菜でつくるペースト）をつくることと「美味しいスープをたっぷりパスタに吸わせること」だった。また、ソフリートには「ニョラ」と呼ばれる乾燥パプリカを刻んで入れるという秘密まで、ロシンニョルのシェフは教えてくれた。今まで暗闇を探るようなフィデウア研究に、大きな足がかりができた。



また、バレンシア滞在の間ずっとお世話になっていたホストファミリーからも大きなヒントをもらった。ホストマザーはもともとホテルのシェフ。旅の目的を話すと、魚介のフィデウアを自らつくって見せてくれた。ホストマザーがつくるフィデウアは、ムール貝のゆで汁が旨味の決め手となる、見事なフィデウアだった。これで三嶋の心は決まった。「初めて店で大々的に展開するフィデウアは、現地にしっかり根付いているトラディショナルな魚介のフィデウアしかない!」。

帰国後、三嶋はまず本物、つまり「魚介のフィデウア」で勝負したいと力説。これには全員一致の賛同を得た。また、新作フィデウアには味の決め手となるソフリートを使うことも提案。いよいよ各店舗の料理長それぞれによる試作が始まった。

まずはソフリートづくりからスタート。ソフリートはルーのようでもあり、日本でいう味噌のような存在でもある。それが味の方向性を決めるだけあって、さまざまなことが試された。旨味を足すためにイカやホタテを入れたり、ハーブを入れたりもした。しかし、考えれば考えるほど、迷宮に入っていくのが世の常で、三嶋は気づけばトマトソースをふんだんに使ったフィデウアをつくっていた。3人の料理長による試食会の時、バハルボールの木下孝オナーは三嶋にこう言い放った。

「トマトソースのフィデウアなら、これでもいいと思う。しかし、これを魚介のフィデウアと呼べるのか?」

三嶋のフィデウアは、ソフリートづくりがいつしかソースづくりに脱線し、気づけばトマトソースの Pasta に限りなく近づいていた。

「いったい何のために現地でフィデウアを見てきたんだ! 本物のフィデウアを、フィデウアの根っこを伝えるのが自分の役割じゃないのか!」

三嶋はこれまでの試作案をすべてリセットし、再びソフリートづくりからやり直した。ソフリートにとって最も大切なものは何かと考えた結果、ニンニクとパプリカパウダーだけのソフリートを極めることを決意。しかし、両者の配合は何度もやり直して考えた。ニンニクへの火の入れ方も、お客さまの目の前に出た時にベストな香りと風味が出るよう、秒刻みでタイミングを見極めた。他にも具となる食材の量やバランスを何度も変更し、どの食材の旨味をメインに引き出すかが、決まらない。三嶋はホタテ、他の者はイカのミンチや、タイのアラのスープを使い、旨味を出そうとしていたが、どうも決め手に欠ける。そんな時、「自分につくらせてください」と名乗り出たのは、まかないの時に地道にフィデウアをつくり続け、自分なりに研究を続けていた石だった。石がつくったフィデウアはやや多めのイカをしっかりと炒めることで特有の香ばしさを出したもの。さらにアサリからの旨味をたっぷりパスタに吸わせていた。これに三嶋が研究したソフリートを加えたものを口にした瞬間、三嶋と石は目を見合わせてこう言った。

「これだ!」

試作を始めて約1カ月、ようやく笑顔がこぼれた。料理名は「魚介のフィデウア」。スペイン語名はフィデウア発祥の地に敬意を込め、「Fideuá de Gandía」となった。

フィデウアはフィデウアという料理である。決してパエリアの米の代わりにパスタを使っただけのものではない。そこにはフィデウアやスペインの食文化に対するリスペクトがある。そして、フィデウアが愛されているバレンシアの魂が脈々と受け継がれている。

三嶋さんと石さんの力作、魚介のフィデウアは、二人が働くフイゴ、エル フォゴンをはじめとするバハルボール系列店で。



Fideuá de Gandía

【魚介のフィデウア】

スペイン東部の町、「ガンディア」の港はイタリアとの貿易が盛んだったことから、日常の食卓にもよくパスタが並んでいた。そんなガンディアにサパロという船乗りがいた。サパロは船の主人のため、船上でパエリアをつくっていたのだが、ある日、米が大好きな主人がほとんどの米を食べてしまい、船員の分の米がなくなってしまった。そこでサパロは米の代わりにパスタを使ってつくったのがフィデウアの発祥。それを知った船の主人がフィデウアにいたく感動し、ガンディアの港に着いてすぐにレストランの人達を集めレシピを伝えた。そこからフィデウアは世の中に広まっていったという。豪快な船乗りが考えただけあって、たっぷりの魚介から出る旨味をパスタに閉じ込めた贅沢な一枚だ。

スタッフ募集中!

ディレクター、店長、店長候補、アルバイト

企画力、サービス力、調理技術、語学力を活かしながら、会社と一緒に成長していきませんか?

¡Vamos a trabajar juntos!

□待遇□

- ★ 各種社会保険完備 ★ 社員寮あり
- ★ 正社員は1ヶ月のVacationあり
- ★ 語学研修制度(スペイン語)スタートしました
- ★ 男性社員も育児休暇を取っていただきます
- ★ アルバイトから正社員登用もあります

未経験の方もしっかりサポート。安心してスタートできます。

■お問い合わせ先■

履歴書(写真つき)を下記までお送りください。
書類選考の上、ご連絡させていただきます。

〒604-0932

京都市中京区寺町二条下る妙満寺前町446 若林ビル4F

株式会社バハルボール 採用担当まで

詳細は、ホームページをご覧ください。

<http://www.bajarbol.jp/>

◆勤務地

- La Masa 京都市中京区寺町二条下る妙満寺前町446 若林ビル1F
- EL FOGON 京都市中京区御幸町御池上ル亀屋町380
- La Gallega 京都市東山区川端三条下ル東側大黒町137
- FUIGO 京都市中京区三条高倉東入ル樹屋町55 白鳥ビル2F



スペイン留学ガイド

地方ごと異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪
あなたはスペインと言ったら何を思い描きますか？
フラメンコ、サッカー、闘牛、白い家、サグラダ・ファミリアなど…
お気に入りの街が見つければ、きっと、より充実した留学生活になること
でしょう。

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。
ここでは、代表的な留学先をいくつか紹介していますが、この他にも多くの
学校をご用意しております。

まずは、電話やメールでご相談下さい。スペイン留学.jpでは、カウンセリ
ングを行い、一人一人のご希望に合った学校を提案いたします！

※料金は1€=129円で計算した2013年5月のものです。入学金や宿泊先斡旋料、夏期
料金等が加算される学校もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。



サラマンカ

1218年に創立されたスペイン最古の大学がある学生の街。カテド
ラル、大学、貝の家、マヨール広場など美しい建物が多く、旧市街
全体が世界遺産に登録されています。

colegiodelibes
Y TU... ¿HABLAS ESPAÑOL?

<コレヒオ デリベス>

	2週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	336€ / 43,344円	2.600€ / 335,400円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	266€ / 34,314円	3.192€ / 411,768円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	210€ / 27,090円	1.860€ / 239,940円



セビーリャ

太陽と青い空が似合うスペイン南部、アンダルシア地方にある歴史
的な街。スペインの三大祭りのひとつである、春祭りでも有名です。
バスや電車で少し足を延ばすと、まるで絵ハガキのような白い村が点
在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じるができます。

<クリックIH セビーリャ校>

clic

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	175€ / 22,575円	3.360€ / 433,440円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	160€ / 20,640円	3.840€ / 495,360円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	100€ / 12,900円	2.400€ / 309,600円

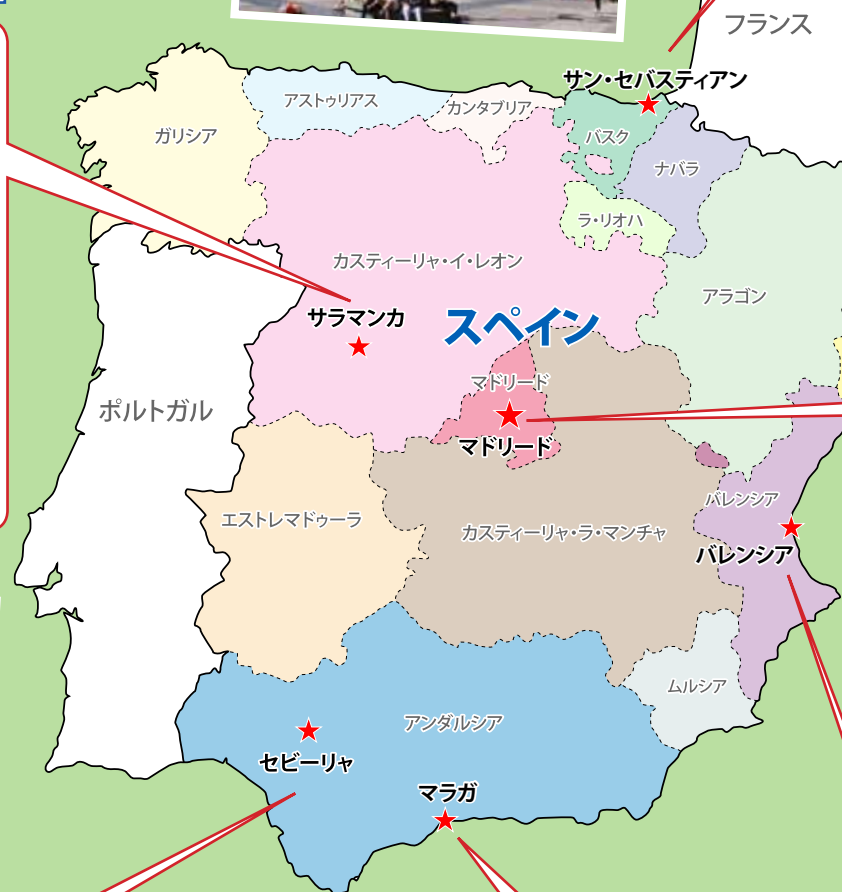
マラガ

コスタ・デル・ソルの中心地として有名なリゾート地。ピカソの出
身地としても有名で、街にはピカソの生家や美術館などもあります。
国際空港があり、便利なアクセスも魅力の一つです。

<デブラ>

Debla

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	184€ / 23,736円	3.582€ / 462,078円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	212€ / 27,348円	4.488€ / 578,952円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	140€ / 18,060円	2.664€ / 343,656円



サン・セバスティアン

フランス国境近くに位置し、バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも賑わっています。



<ラクンサ・インターナショナルハウス>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	158€ / 20,382円	2.832€ / 365,328円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	216€ / 27,864円	5.184€ / 668,736円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	114€ / 14,706円	2.736€ / 352,944円



マドリード

世界的に有名なプラド美術館や王宮、レティーロ公園など見所がいっぱいの活気溢れる、スペインの首都。休日にはショッピングやバル巡りを楽しんだり、アート鑑賞に耽ったり・・・。

マドリードはスペインのほぼ中心に位置するため、他の都市へのアクセスも良好です。



<エウレカ>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	200€ / 25,800円	3.445€ / 444,405円
☆ホームステイ (個人部屋・3食付)	210€ / 29,090円	5.040€ / 650,160円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	150€ / 19,350円	2.850€ / 367,650円

バレンシア

火祭りとパエージャ発祥の地として有名な、スペイン第3の都市バレンシア。地中海性の温暖な気候で、ビーチリゾートとしても知られています。



<コスタ・デ・バレンシア>

	1週間あたり	24週間あたり
★一般集中スペイン語コース (20時間/週)	175€ / 22,575円	3.085€ / 397,965円
☆ホームステイ (個人部屋・2食付)	175€ / 22,575円	4.200€ / 541,800円
☆共同アパート (個人部屋・食事なし)	110€ / 14,190円	2.640€ / 340,560円

ご出発までの流れ

- ① 留学カウンセリング、お見積り
「どの街にしよう?」「費用はどれくらい?」「何から準備すればいいの?」など、漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはメールやお電話でお気軽にご相談下さい。
- ② 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが決まれば、留学手続代行申込書を提出
- ③ 入学手続き開始
- ④ 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
- ⑤ 学生ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、在日スペイン大使館へ提出
90日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上以上の留学には学生ビザが必要です。短期学生ビザ(91日以上180日以内)取得の場合は、ご出発の約2ヶ月前、長期学生ビザ(181日以上)取得の場合は、ご出発の約3ヶ月前に時間に余裕を持って提出して下さい。
- ⑥ 留学費、海外送金手数料のご入金
- ⑦ 航空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、いよいよご出発!

<当サポートサービスの範囲>

- ・選択された学校への出願サポート
- ・サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、共同アパート等の宿泊先申込手続(混雑状況によりご希望に添えない場合がございますので、事前にご確認下さい。)
- ・留学費用の海外送金
- ・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい。
※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配等は含まれません。各自でご準備下さい。
※海外送金手数料(約7,500円)はご負担となります。

よくあるご質問

- Q 語学プラスαでどんな事ができますか?
A フラメンコ、サルサ、スペイン料理、ワインテイスティング、ゴルフ、テニス、サーフィン、スキューバダイビング、スペインタイルなど・・・、様々な楽しいプログラムをご用意。また、50歳以上の方向けに、ゆっくりスペイン語を学び文化を楽しむコースもあります。
- Q 留学の費用はどのくらいかかりますか?
A 主にかかる費用の内訳は、入学金、教材費、授業料、滞在費、航空券代、保険代です。学校のプログラムや、宿泊タイプ、都市によって、かかる費用は大きく違ってきます。長期留学される方向けに受講料の長期割引がある学校もあります。
- Q どんな滞在スタイルがありますか?
A ホームステイ、共同アパート、学生寮、個人フラット、ホテルなどがあります。

スペイン留学.jpでは、ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずは、お気軽にご相談下さい。

【お問合せ】

スペイン留学.jp

URL: www.spainryugaku.jp

お電話: 06-6346-5554

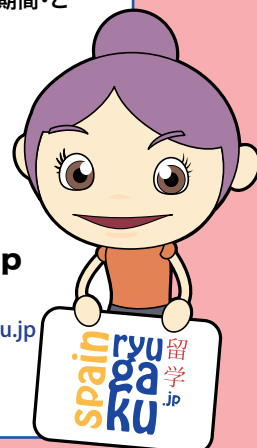
E-mail: info@spainryugaku.jp



<https://www.facebook.com/spainryugaku.jp>

いいね! をクリック!

今すぐスペイン留学の最新情報を入手しよう!



はじめてのスペイン語講座

第13回 比較の表現について①



Hola. みなさん、こんにちは!

今回のスペイン語講座からは、シリーズで比較について勉強しましょう。

「比較の表現」にいくつかの種類があります。

まず大きく分けて、「比較級」と「最上級」があります。またその中にも「比較級」であれば「優等」「同等」「劣等」の3つ、「最上級」であれば、「優等」と「劣等」の2つに分けることができます。なんだかややこしいようですが、実際にルールを覚えれば、比較級は簡単に作る事ができますので、安心して下さいね。

シリーズ①では、「比較級」にスポットを当てて学習していきましょう。

① 2つのものを比較して、『AはBより～だ。』というのが、皆さんも良くご存知の『比較級』の基本的概念ですね。まずは以下の公式を覚えましょう。

#1

PRENDE 覚えましょう!

比較級を覚える上で最も重要となるのが、以下の表現です。シンプルなので、直ぐに覚えられますね。

<優等比較>

[más ~ que -] 『 - より～』

<劣等比較>

[menos ~ que -] 『 - より～でない』

『～』の部分には形容詞、副詞、名詞のいずれかが入ります。
それぞれの違いは、以下の例文で確認してくださいね。

- 例 【形容詞の場合】 Mi padre es **más alto** que yo. 私の父は私より背が高い。
Yo soy **menos alto** que mi padre. 私は私の父より背が高くない。
- 例 【副詞の場合】 Yo corro **más rápido** que mi madre. 私は私の母より速く走る。
Mi madre corre **menos rápido** que yo. 私の母は私より速く走らない。
- 例 【名詞の場合】 Mi hermano tiene **más libros** que yo. 私の兄は私より多くの本を持っている。
Yo tengo **menos libros** que mi hermano. 私は、私の兄より多くの本を持っていない。

上では、形容詞、副詞、名詞の比較の例を一度に紹介しました。この3つがあるという事を念頭に置きながら、ここではそのうちのひとつである、形容詞を例に細かく見ていきましょう。

左上の絵を見て下さい。ホセさんが、とても高そうなスポーツカーに乗っていますね。その一方、左下のマリさんは、環境に配慮した軽自動車です。この2台の車のうち、どちらの車の方が高価か、比較級を使って表してみましょう。

例 El coche de José es **más caro** que el (coche) de Mari.
高価な、高い (形容詞)

ホセさんの車は、マリさんの車より高価です。

では、次に劣等比較も見ておきましょう。

劣等比較は、2つの物を比べて、少ない方を比較の中心として表す方法です。日本語には存在しない表現なので、慣れるまで少し戸惑うかもしれませんが、考え方は<más ~ que>の場合と変わりません。

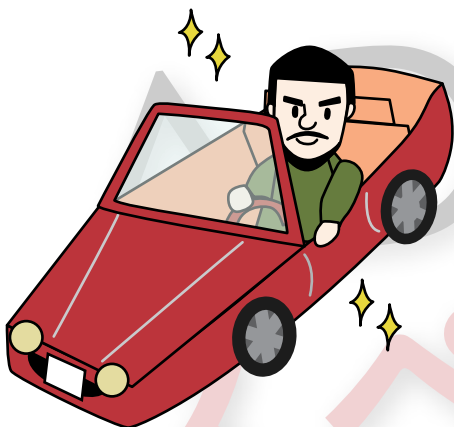
ホセさんとマリさんの車の値段に関して、劣等比較を使うと以下の用に言い表す事ができます。

例 El coche de Mari es **menos caro** que el (coche) de José.
高価な、高い (形容詞)

マリさんの車はホセさんのより少なく高いです。☞ マリさんの車は、ホセさんの車より高くありません。
(マリさんの車は、ホセさんの車より安い。)

<menos>は、『より少ない』や『より少なく』を表しますので、上の<menos caro>の部分をそのまま翻訳すると、「より少なく高い」となります。これを日本語らしくすると上の様に『～より高くはない』と言い換えることができますね。

またいっそのこと、『高い』の反義語である『安い』を使った優等比較の文に言い換えてしまっても意味は通りますので、問題はありません。



El coche de José es más caro que el (coche) de Mari.

ホセさんの車はマリさんの車より高いです。



El coche de Mari es menos caro que el (coche) de José.

マリさんの車はホセさんの車より安いです。

② 次に2つあるもののどちらかに優劣を付けるのではなく、同じくらいの度合いのものを2つ表すために使われる『同等比較』についても、勉強しましょう。この『同等比較』の場合は、『優等比較』や『劣等比較』と違って、形容詞と副詞の場合と名詞の場合で作り方が異なりますので、気をつけましょう。



PREPARE 覚えましょう!

<形容詞・副詞の場合>

[**tan** 形容詞/副詞 **como** —] 『— と同じくらい～ (形容詞/副詞)』

<名詞の場合>

[**tanto** 名詞 **como** —] 『— と同じくらいの(量の)～ (名詞)』

- 例** 【形容詞の場合】 Mi hermana es **tan alta como** yo. 私の姉は私と同じくらい背が高い。
Mi hermano no es **tan alto como** yo. 私の弟は私ほど背が高くない。
- 例** 【副詞の場合】 Mi ciudad es **tan grande como** Barcelona. 私の街はバルセロナと同じくらい大きい。
Mi ciudad no es **tan grande como** Nueva York. 私の街はニューヨークほど大きくない。
- 例** 【名詞の場合】 Mi tía toma **tanto café como** mi madre. 私のおばは私の母と同じくらいコーヒーを飲む。
Yo no tomo **tanto café como** mi padre. 私は、私の父ほどたくさんコーヒーを飲まない。



Mari es tan trabajadora como Masao.

マリさんはマサオさんと同じくらいよく働きます。

まとめとして、右上の例を見て下さい。マリさんとマサオさんが机を並べて一生懸命働いています。2人ともとても働き者ですね。そんな時は、以下の様に言うことができます。

- 例** **Mari es tan trabajadora como Masao.** 肯定形にすると...
Mari es **tan trabajadora como** Masao. Mariさんはマサオさんと同じくらいよく働きます。
- 例** **Mari no es tan trabajadora como Masao.** 否定形にすると...
Mari **no es tan trabajadora como** Masao. Mariさんはマサオさんほど働きものではありません。



③ 最後に、形容詞自体が変化するタイプの比較級について見ておきたいと思います。これは①の『優等比較』『劣等比較』の場合だけでなく、これから出て来る最上級でも出てきますので、この機会にしっかり覚えておきましょう。

①で、形容詞、副詞、名詞の前に<más>や<menos>を付ければ比較になるということでしたが、これには例外があります。[**bueno** (形)/**bien** (副)], [**malo** (形)/**mal** (副)], [**grande**], [**pequeño**]の4つは、以下の様に変化します。

A. <MEJORとPEOR>

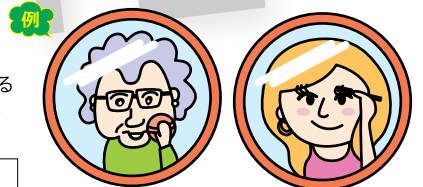
más bueno	➡	mejor
más bien		
más malo	➡	peor
más mal		

- 例** Ella cocina ~~más bien~~ que yo.
↓
Ella cocina **mejor** que yo.
彼女は私よりも料理が上手です。
- Yo canto ~~más mal~~ que ella.
↓
Yo canto **peor** que ella.
私は彼女よりも歌が下手です。

B. <GRANDEとPEQUEÑO>

[grande]と[pequeño]の場合は、単に変化させるだけでなく、以下の様に意味によって使い分けが必要です。注意して下さい。

más grande	➡	más grande サイズなどについて mayor 年齢について
más pequeño	➡	más pequeño サイズなどについて menor 年齢について



Mi abuela es mayor que yo.

私の祖母は私よりも年をとっています。

※ **Mi abuela es más grande que yo.**
という表現は、文法的には正しいのですが、
『私の祖母は私より(体が)大きい』
という意味になってしまいます。



《TANTO の使い方について》

②の『同等比較』で、<TAN>/<TANTO>という言葉が出て来ましたが、上では、詳しく触れることができませんでしたので、ここでもう少し詳しく説明したいと思います。

まず、<TAN>は、形容詞・副詞とセット、<TANTO>は名詞とセットで使われます。特に気をつけて欲しいのは、名詞とセットで使われる場合の<TANTO>の変化です。

- Ella tiene **tantos zapatos como** yo. (彼女は私と同じくらいたくさん靴を持っている。)
↑ 男性名詞・数詞形なので、tantoはtantosに変化
- Mi casa no tiene **tantas habitaciones como** esta casa.
↑ 女性名詞・数詞形なので、tantoはtantasに変化

(私の家にはこの家ほど多くの部屋はありません。)
上記のように、<tanto>の後にくる名詞が男性・女性・単数・数詞によって<Tanto>、<Tanta>、<tantos>、<tantas>といずれかに変化させて使用することが必要です。

また、上には説明がありませんが、動詞とセットで<tanto>を使用することがあります。

- Jorge **come tanto como** su padre. (ホルヘは彼の父親と同じくらいよく食べる。)
↑ (動詞) tanto como ~ で『〜と同じくらいたくさん〜する』
- Yo **no estudio tanto como** mi hermana. (私は、姉ほどたくさん勉強しない。)

なお、動詞とセットで<tanto>を使う場合には、名詞の時のような変化は必要ありませんので、少し楽ですね。今回もたくさん覚えることがありますが、焦らずひとつずつ覚えていきましょう。



- ・一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分
- ・自然なスペイン語がマスターできる!
- ・振替ができるので忙しくても安心!
- ・月謝払いOK!
- ・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F
TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122
E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

イラスト：田中文字子

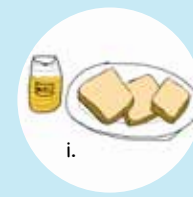
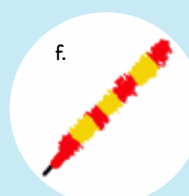
ACTIVIDADES DE FERIA Y SEMANA SANTA

フェリア(春祭り)とセマナサンタ(聖週間)についてのクイズ

1. ¿Qué es qué? Relaciona cada dibujo con su nombre.

1. それぞれの絵に合った単語を下から選びなさい。

- 1) nazareno 2) paso 3) toro 4) banderilla 5) farolillo 6) montera 7) capote 8) crucifijo 9) torrija 10) traje de flamenco
11) torero 12) peineta 13) portada



2. ¿Los Toros, Semana Santa o Feria? Especifique la festividad de los siguientes elementos:

2. 次の単語はいずれもスペインの伝統行事である闘牛、セマナサンタ(聖週間)、フェリア(春祭り)のどれかに関連しています。それぞれどの行事に関連しているでしょうか?

- 1) nazareno 2) paso 3) toro 4) banderilla 5) farolillo 6) montera 7) capote 8) crucifijo 9) torrija 10) traje de flamenco
11) torero 12) peineta 13) portada

3. Encuentra las palabras ocultas en la sopa de letras

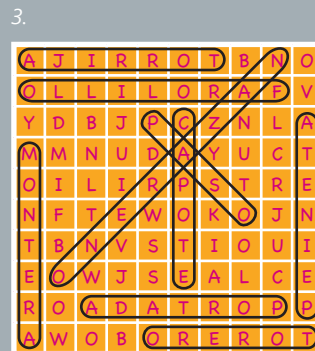
3. 下の表には9つの単語が隠れています。見つけれられるかな?

A	J	I	R	R	O	T	B	N	O
O	L	L	I	L	O	R	A	F	V
Y	D	B	J	P	C	Z	N	L	A
M	M	N	U	D	A	Y	U	C	T
O	I	L	I	R	P	S	T	R	E
N	F	T	E	W	O	K	O	J	N
T	B	N	V	S	T	I	O	U	I
E	O	W	J	S	E	A	L	C	E
R	O	A	D	A	T	R	O	P	P
A	W	O	B	O	R	E	R	O	T

- CAPOTE
- FAROLILLO
- MONTERA
- NAZARENO
- PASO
- PEINETA
- PORTADA
- TORERO
- TORRIJA

SOLUCIONARIO - 解答

1. 1)-a, 2)-g, 3)-h, 4)-f, 5)-j, 6)-m, 7)-d, 8)-c, 9)-i, 10)-b, 11)-l, 12)-k, 13)-e
2. 1) Semana Santa
2) Semana Santa 3) Los Toros
4) Los Toros 5) Feria de Abril
6) Los Toros 7) Los Toros
8) Semana Santa 9) Semana Santa 10) Feria de Abril
11) Los Toros 12) Feria de Abril 13) Feria de Abril



3.

amar, vivir y sentir en español



現在分詞について

今回は動詞の「非人称形」(formas no personales) の1つである過去分詞を取り上げましたが、今号は現在分詞です。現在分詞の機能ですが、ひとことで言って「動詞」と「副詞」の働きを分かち持っています。「分詞」とは「分かち持つ言葉」であることを再確認しましょう。

ところで、「現在分詞」という用語ですが、スペイン語では何と言うのでしょうか。単純に "participio de presente" と考えると誤りです。実は "gerundio" と言います。"gerundio" は本来「動名詞」なのですが、スペイン語では副詞的に使うのが大原則なので矛盾した名前となっていました。一方、その働きは英語の現在分詞と似ています。そこで日本では「現在分詞」が定着しています。我々もこれを使うことにします。

用法として最も基本的なのが、進行形《estar+現在分詞》です。ただ、スペイン語は現在形や線過去でもある程度「進行状態」を表すことができますので、進行形が使われているときはより強調されていると考えてよいでしょう。また、実際の用法では必ずしも厳密に「進行中」というわけではありません。例えば、

En Japón **trabajo** en un restaurante español.

日本ではスペイン料理店で**働いている**。(職業として)

Estoy trabajando en un restaurante español desde que entré en la universidad.

大学入学以来スペイン料理店で**働いている**。(一時的にバイトとして)

もちろん文脈によりますが、上のようにニュアンスに差を付けることができます。後者の場合、「今、仕事中」(つまり「進行」)ではありません。「一時的に、バイトで」を強調するために進行形にしています。一方、

Perdona, ahora **estoy trabajando** en un restaurante español. Te llamaré más tarde.

ごめん、今スペイン料理店で**バイト中なんで**、後でかけるね。

このような文脈が具体的に ある場合はもちろん「仕事中」(進行中)です。

どんな動詞でも進行形になるわけではなく、なりにくい動詞があります。例えば、本来的に継続的な意味を持つ"saber"や"amar"は進行形には通常なりません。また、「瞬間的」な動作を表す動詞はそもそもその動作を「進行」するわけにはいかないので「繰り返し」に解釈されます。後者の例です。

El cartero **está golpeando** a la puerta.

郵便配達人はドアを(何度も) **ノックしている**。

続いて、estar以外を用いた構文を思い出しましょう。《seguir+現在分詞》(～し続ける) はよく使われる表現です。

Las autoridades policiales **siguen investigando** la causa del accidente de tráfico.

警察当局はその事故の原因を**究明し続けている**。

その他、《andar+現在分詞》(～して歩く)、ir+現在分詞(～してゆく)、venir+現在分詞(～してきている)などは初級の教科書でおなじみです。

Ese tipo **anda diciendo** tonterías por todas partes. ¡Cuidado, son mentiras!

そいつはそこらじゅうで馬鹿なことを**触れ歩いている**。気を付けろ!嘘だから。

《動詞+現在分詞》が固定した慣用表現化してはいないけども、やはり主動詞に係っている場合があります。ここでは「副詞的用法」と呼んでおきましょう。

Los inmigrantes ilegales cruzaron el Estrecho de Gibraltar **nadando**.

不法移民たちは泳いでジブラルタル海峡を渡った。

現在分詞の重要な用法の1つは分詞構文です。さっきの副詞用法とどう違うか考え出したらいろいろ問題になるのですが、ここでは、「より独立性が高く、一文に相当するとみなせるような構文」を分詞構文と考えておきましょう。分詞構文の意味は基本的に「～して、～しながら」と考えていいのですが、細かく考えるとその意味と訳し方は様々です。時(～すると)、条件(～すれば)、譲歩(～だけれども)、などです。現在分詞自体には具体的な意味はなく、前後の文脈等で様々な意味が生じると考えたらわかりやすいでしょう。

Corriendo a toda velocidad llegué a tiempo al banco.

全力で**走ったので**銀行の閉店に間に合った。(理由)

Estudiando duro todos los días podrás aprobar las oposiciones para funcionario del Estado.

毎日しっかり**勉強すれば**、国家公務員試験に受かるだろう。(条件)

Viviendo cerca de la Universidad, Raquel llega tarde a clase.

ラケルは大学の近くに**住んでいるのに**授業に遅刻する。(譲歩)

Ella, sin decirnos nada, entró en su habitación, **cerrando** la puerta con llave.

彼女は我々に何も言わずに部屋に入り鍵を**閉めた**。(継続行為)

この文では2つの行為は同時ではなく、順に起こっているのがわかりますね。言い換えると次のようになります。

Ella, sin decirnos nada, entró en su habitación y cerró la puerta con llave.

現在分詞は知覚動詞(verやoír)の構文でもよく使われます。《知覚動詞+目的語+現在分詞》です。例文を見てみましょう。

Quiero ver el sol **saliendo** de la cumbre del monte Fuji.

富士山の頂上から太陽が**昇っているの**を見たい。

スペイン語の現在分詞は英語とは違って形容詞的な用法はありませんが、一部慣用句は例外です。

例: agua hirviendo 沸騰する湯

また、絵画等のタイトルではよく使われます。

例: "Mujer llorando"『泣く女』(ピカソ)

最後に知っているると便利な慣用的な表現です。便利なのでどんどん覚えて使しましょう。

Cambiando de tema... : 話題を変えると...

Dependiendo del caso... : それは場合によるが...

Pensándolo bien... : それをよく考えてみると...

Teniendo en cuenta que... : ～を考慮すると...

今回は簡単だったと思います。分詞を使うと表現の幅が広がることが実感できたのではないのでしょうか。¡Hasta la vista!

文 仲井邦佳



仲井邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語 一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。

エヨ・エスパーニャ(その3)

「バルセロナのレンタサイクル」



最もエコな乗り物で、まず思い浮かぶのが自転車だ。バルセロナでは、2007年からこの自転車を、公共交通機関として利用している。

自転車は、スペインでは意外に人気がある。小さな田舎町にも、ロードレースの愛好会があり、週末ドライブをしていると、よくユニホーム姿のグループが走っているのに会う。9月にスペイン国内を舞台にして行われるロードレース・Vuelta a España にはスペイン中が熱狂する。

バルセロナの場合は、もともと人気の自転車を、環境対策の一つとして取り入れたものだ。というわけで、「Bicing」と呼ばれるこのレンタサイクルは基本的に、旅行者や観光客のためではなく、住民が通勤などに使うためのものである。年間パスは46.46ユーロ（税込）で、申請して受け取るまでに10日ほどかかる。通勤時の使用を目的としているため、原則1回の使用時間は30分とされ、それ以上は30分毎に0.73ユーロ（税込）を追加で支払うことによって、2時間まで借りられる。



バルセロナでは、自転車専用レーンも充実し安全に走ることができる。



バルセロナネータにあるステーション。



エヴァさんは、繁華街に出かけるのに利用している。



2つの穴に自転車前部の突起物を差し込み返却。

現在、約11万人がパスを持ち、自転車が置かれているステーションは、駅やバス停などの公共施設付近に420ヶ所ある。6000台の自転車が用意されており、1台が日に平均5～6回利用されている。これによって、通勤の車が10%ほど減ったといわれる。道路の自転車専用レーンも、日本と比べるとはるかに充実している。

ロンドンやパリでもバルセロナ同様の自転車貸出システムがある。数年前から、メキシコシティでも同じスタイルのものをみかけるようになった。東京のように、スペースがあまりない都市では難しいかも知れないが、駅前の放置自転車対策として、利用を考えても良いのではないだろうか。

文・写真 篠田 有史



篠田有史

しのだゆうじ/Yuji Shinoda

1954年岐阜県生まれ。フォトジャーナリスト。

24歳の時の1年間世界一周の旅で、アンダルシアの小さな町Lojaと出会い、以後、ほぼ毎年通う。その他、スペイン語圏を中心に、庶民の生活を撮り続けている。

【写真展】 スペインの小さな町で（富士フォトサロン）、遠い微笑・ニカラグア（〃）など。

【本】 「ドン・キホーテの世界をゆく」（論創社）「コロンブスの夢」（新潮社）「リゴベルタの村」（講談社）などの写真を担当。



在スペイン日本大使館の代表とセゴビア市役所の代表、
「言葉と桜の庭園」入り口前にて

日本スペイン交流400周年 日本と固い絆で結ばれた街、セゴビアで、桜の植樹

スペイン国内の他の街と同様、世界遺産として高い価値を誇るセゴビアは日本人観光客が多く訪れ、学生の語学留学先としても人気が高い。そして今、アジア諸国とのさらに深い絆を生み出すために、日本文化を“根付かせる”こととなった。

北側の城壁近く、セゴビアの街を一望できるある一角に位置する「デリベスの庭」には、桜が植え付けられ、「言葉と桜の庭園」と名付けられた。デリベスとはバジャドリード出身の作家で、クラウディア市議会委員は「この庭園がこんなにも美しく飾られ、セゴビアと日本との友好を表すものであることを、きっとデリベスは喜んでいるはずだ。」と話した。

ミゲル・デリベス公園での25本の桜の植樹にはクラウディア議員、ペドロ・アラウエテス市長をはじめ、在スペイン日本大使

館の代表、森下敬一郎公使も参加した。彼を迎えるにあたり、「次は、太陽の光が必要だね。」と、アラウエテス氏は冗談を言った。「日出づる国」の代表が到着した朝はあいにくの雨だった。

それでも、日本の伝統的な着物である“ハッピ”を身に付け植樹は行われた。日西観光協会の下平春郎会長は、こう語る。「桜は平和と友好の象徴です。」一方、クラウディア議員は、こう語った。「桜を植えた人がそれを見に戻ってくる、そしてまた、子どもたちや孫をここに連れてくるなんて、少しおおげさな言い方かもしれませんがね。けれども私たちが文化的に豊かになり、お互いを尊重するという気持ちをもつことができればと思います。それが、観光なのではないでしょうか。」つまり、この庭は「セゴビアと日本の新たな門出」になる。アラウエテス市長は



3月22日、セゴビア市長（ペドロ・アラウエテス氏）と
日本大使館の森下敬一郎氏が共に桜の木を植樹



セゴビアに留学中の神戸市外国語大学の学生も植樹に参加



セゴビア市役所にて市長に歓迎される、在スペイン日本大使館の代表者たち



スペイン日西観光協会とセゴビア市の間で、セゴビアの観光の振興と、日本文化を普及させるために協定が結ばれた

「桜は日本人にとって単なる木ではなく、人生であり、友情のしるしなのです」と言う。春になり桜が咲き始めると、多くの人がそこに集まり“お花見”をするだろう。

そして桜のみならず、その周りの石碑もまた、道行く人の目を引いている。石碑には、宮本知子氏による書道漢字とスペイン語が彫られている。なお、これらの文字は宮本氏とセゴビア市役所の庭園開設チームのメンバーで選ばれたものである。

公使の森下氏は「セゴビアに滞在できることを嬉しく思います。二国間の友好がこれからも続きますように。」と願った。6月からは日本とスペインの交流400周年を記念して、両国で様々なイベントが開催されるとのことである。

安本彩美、木村萌（神戸市外国語大学）

中高年向けのセゴビア留学プログラム

今年の6月に日西交流400周年記念を迎えます。スペイン・セゴビア市（UNESCO・世界遺産指定都市）は、スペインでは最も先にこの記念を祝います。ヒューマニティの歴史に名高い世界遺産、スペインで最も美しいと言われるセゴビア市でインテリジェンス・ツーリズムを楽しんでみませんか？

私たちはスペインの文化、言葉、社会を深く体験したい人たちを探しています。語学のクラス、スペイン料理の講座、観光とアクティビティ、現地の人々との文化交流などセゴビア市を思う存分楽しんでいただけるツーリズムを提案します。

私たちはスペイン語教授のプロフェッショナルです。またこの企画の総監修は神戸市外国語大学スペイン語教授学の教授モンセラット・サンス博士です。また、この旅行企画はセゴビア市観光局の主催で行われます。

詳しくは、<http://jackieandpartners.com/alba.html>

Fax: 078 811 4557 までお問合せください。



“ESPAÑA FOTO A FOTO”

CONCURSO FOTOGRAFICO スペイン写真コンクール



第3回 スペイン写真コンクール受賞作品

タイトル：Camino de Santiago

撮影者：植野めぐみ



おめでとうございます。受賞者の植野様には、編集部より素敵な賞品をお送り致します。

第4回スペイン写真コンクール作品募集

【応募締切】 2013年7月30日

【応募要項】

1. 18歳以上であればプロ・アマ、出身地問わずどなたでもご参加できます。
2. 各自自由にお選びいただいたスペインに関するテーマで1作品のみ受け付けます。カラーでも白黒でもどちらでも結構です。ご自身の作品に限りです。また、他のコンテストで受賞された作品はご応募できません。
3. 写真サイズは、1024ピクセル×760ピクセルにしてください、(info@acueducto.jp) までご応募ください。プリント写真は受け付けておりません。

下記の必要事項を添えてご応募ください。

1. 氏名 2. 国籍
 3. お住まいの都市
 4. 写真のタイトル
 5. 年齢
 6. メールアドレス
4. 公序良俗に反するもの、人種差別やテロ行為を盛り立てようとする作品の応募は許可なく取り消します。
5. 写真はウェブページ (www.acueducto.jp) にて公開予定です。ネット上の公開、雑誌『acueducto』への掲載、優秀作品の展示会などにおいて、無償で利用させていただきます。商業目的での使用はいたしません。
6. 弊社編集部にて、入賞作品一点が決定されます。

入賞作品は次号に掲載され、入賞者には賞品が贈られます。奮ってご応募ください。

西宮市国際交流協会

スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介

さて、本年第1回目のスペイン語おしゃべりの会は3月10日に行われ、長年神戸に住んでおられるコスタリカ出身のIván Brenesさんが、母国の自然の素晴らしさを中心に数多くの美しい写真を駆使してお話してくださいました。

コスタリカはエコツーリズムさがけの国として知られています。また、永世中立国で軍隊を保有していないこと、「中米のスイス」と呼ばれていることをご存知の方も多いのではないのでしょうか。

その他にも、米にfrijoles(インゲン豆)、玉葱、コリアンダーなどを加えて炊く、“gallo pinto” という国民食の紹介もありました。

さらに、コスタリカ人は縮小辞のticoを多用することから“tico”と呼ばれていること、それに彼らがよく口にする“Pura vida”という言葉の意味も教えてもらいました。これはいい意味で使われる表現で、日本語へ正確に訳するのは難しいのですが、「最高」、「元気」などの意味で使われているそうです。また、お話しの後半には、お嬢さんが民族衣装を着て「出演」し、場を盛り上げてくれました。

この会に出席された方々の中には、同国に長年駐在経験のある方、短期滞在でコスタリカが大好きになった人たちが、今回話を聞いて是非訪ねてみたいと思った参加者などがおられ、多くの質問が活発に飛び交い、文字通り「スペイン語おしゃべりの会」となりました。

次回は6月9日(日)に大阪在住のスペイン女性が、日本での子育ての経験を通じたスペインと日本の教育の違いをテーマにお話くださる予定です。(ところで、西宮市国際交流協会では毎年2月に国際交流デーとして色々な行事を行っています。そのひとつとして“International Cafe”という、日本人

と外国の方々がさまざまな言語で対話できる場を設けています。スペイン語グループは毎年異なった中南米の国を紹介し、その国のコーヒーを味わっていただく機会を提供しています。今年は講師をしてくださったIvánさんからお国のポスター、民芸品それにコーヒーをご提供いただきました。)

文・写真提供 谷善三



講師のIvánさんと素敵な民族衣装を披露くださったお嬢さん

スペイン語おしゃべりの会 次回開催予定

日 時：2013年6月9日(日) 午後2:00-3:30

場 所：〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮 4階

(公財) 西宮市国際交流協会 会議室

ゲスト：Maria José Yukizawaさん (スペイン・マドリッド出身)

参加費：500円 / 定 員：30名 (先着順)

お申し込みはお電話、FAX、E-mailにて(5月15日より受付開始)

お電話：(0798)32-8680 / FAX：(0798)32-8678

E-mail：nia930@sound.ocn.ne.jp

現代スペイン・リアリズムの巨匠

アントニオ・ロペス展 開催

2013年6月29日より長崎県美術館にて、スペイン現代美術の最重要作家アントニオ・ロペスの日本初となる回顧展が開催されます。

ロペスは、身の回りの家具や植物、そして家族たちなど、何の変哲もない日常の生活にモチーフを求め、そこに美を見出していきます。それらを忠実に、そして時には気の遠くなるほどの時間をかけて描くことにより、ロペス独自の世界へと変容させていきます。我々はロペスの目を通して、新たな現実の姿を発見していくことになるのです。

日本では1993年に封切られた映画「マルメロの陽光」(監督:ビクトル・エリセ)に登場する作家として紹介されることが多いのですが、芸術家としての全貌はまだまだ広く認知されているとはいえない状況です。展覧会開催にあたり、長崎県美術館が所蔵する《フランシスコ・カレテロ》(1961-87年)を中心軸として、作家本人と話し合いながら厳選に厳選を重ねて出品作品を固めてきました。本展では、美術学校時代の初期作品から近作まで、彼の手がける油彩、素描、彫刻の各ジャンルから選んだ64点の作品によりロペス芸術を包括的にご紹介いたします。会場では「故郷」「家族」「静物」「室内」「植物」「マドリッド」「人体」の7章に分け、ロペスが長年にわたって追求してきた各テーマを分かりやすく展示します。

作家自身が展覧会にあまり積極的でないこともあり、大規模な個展はおそらく日本では最初で最後となるかもしれません。このまたとない機会にロペス芸術の粋を是非ともお楽しみください。



《グラン・ビア》制作中のロペス1978年

© Fundación Colección Thyssen-Bornemisza, Unidad Móvil and María López archive

現代スペイン・リアリズムの巨匠 アントニオ・ロペス展

スペインを代表する画家であり、映画『マルメロの陽光』(ビクトル・エリセ監督)で知られるアントニオ・ロペス(1936~)の日本初となる待望の回顧展。全世界に熱烈な信奉者を持ち、スペインでの大規模な個展(2011)でも記録的な来場者数を獲得したロペス芸術の精華を、代表作64点により一挙公開。

〔会 期〕 2013年6月29日(土)~2013年8月25日(日)

〔時 間〕 10時~20時(入場は19時30分まで)

〔休館日〕 7月8日(月)、7月22日(月)

〔料 金〕 一般1,200(1,000)円、大学生・70歳以上900(700)円、高校生600(400)円、中学生以下無料、アントニオ・ロペス展パスポート1,600円

※ ()は前売または15名以上の団体料金

※ 期間中、本展観覧券で美術館コレクション展(常設展示室)に入場可。ただし、美術館コレクション展は7月22日(月)~8月12日(月)の期間、「2013長崎しおかぜ総文祭」等のため休室。

※ 障害者手帳保持者及び介護者1名までは5割減額

※ アントニオ・ロペス展パスポートは、本展に会期中何度でも入場可能(美術館コレクション展は1回のみ)。本人に限る。長崎県美術館で販売。

〔会 場〕 長崎県美術館

住所:〒850-0862 長崎市出島町2番1号

Tel.095-833-2110 Fax.095-833-2115

<http://www.nagasaki-museum.jp>



© Fundación Colección Thyssen-Bornemisza, Unidad Móvil and María López archive

ANTONIO LÓPEZ

アントニオ・ロペス

1936年スペイン、ラ・マンチャ地方の町トメリヨソ生まれ。

13歳の時に絵画修業のため単身マドリッドへと居を移し、それ以降、若くして芸術の才能を開花させ、絵画、彫刻の分野にてリアリズムを追求。現在70代後半を迎えてなお、制作意欲は全く衰えることなく、数々の傑作を生み出し続けている。

RUMBO AL SOL

Vol.4 4月23日はサンジョルディの日

みなさん、4月23日は何の日かご存じでしょうか。

4月23日はサンジョルディの日、スペインのカタルーニャ地方では男性から女性にバラの花を、女性から男性には本をプレゼントする日です。

日本のみなさんには馴染みがないかもしれませんが、サンジョルディはキリスト教の聖人の一人でカタルーニャの守護聖人でもあります。昔々の伝説として、獷猛なドラゴンが集落を荒らしていたところ、サンジョルディが現れ、ドラゴンを倒し、生贄になる寸前だったお姫様を救い出した、と言われています。そして倒したドラゴンから流れた血が地面を赤く染め、そこから一輪のバラが咲いたそうです。

現在、カタルーニャでは、このサンジョルディの日に、恋人、夫婦、友達、または家族の間で赤いバラの花、そして本を贈ります。最近では、レインボーカラーのバラが売られたり、書店で小説家によるサイン会や特別セールも開催されたりと、街中は多くの人で賑やかになります。春の風物詩としてこの日は特別華やかな雰囲気になります。期間限定ですが、機会があればぜひ日本のみなさんもこの雰囲気を楽しんでみてください。

文・写真 Xavier Cabrera 翻訳 山下智子



FCバルサをイメージしたバラも！



ショーウィンドウにもサンジョルディとドラゴンが飾られています



バルセロナのランブラス通りは多くの人で一杯！



Xavier Cabrera シャビエル・カブレラ

スペイン・カタルーニャ出身。
映像ディレクター。旅と山と美味しいものをこよなく愛し、その土地特有の歴史や文化に魅せられる。2008～2011年まで大阪在住。

スペインサッカーを巡る

-3-

第3回目となりました「スペインサッカーを巡る」ですが、今回はビルバオにあるアスレティック・ビルバオというチームについて書きたいと思います。

まずビルバオという街について、ビルバオはスペイン北部、バスク地方の都市です。グッゲンハイム美術館や世界遺産に登録されているビスカヤ橋などが有名で、芸術と美食の街として広く知られています。

この街に本拠地を置くのが、リーガ・エスパニョーラに所属するアスレティック・ビルバオです。しかし、何故バルセロナやマドリッドではなく、人口がスペイン第10位で、1年のうち雨の日が45%、曇りの日が40%のビルバオにあるチームを取り上げる必要があるのでしょうか。

それは、アスレティック・ビルバオが全選手をバスク人（バスク自治州、ナバーラ州、ラ・リオハ州出身者か、フランス領バスクのラブル・スール・バス＝ナヴァール出身者）又は、直系の先祖にバスク出身者がいる選手に限定するという唯一無二のクラブ方針があるからです。例えば、もしメッシやクリスティアーノ・ロナウド、香川真司が「ビルバオに入りたい!」と言ってもこの方針がある以上それは不可能なのです。

また、アスレティック・ビルバオはこの方針を貫きながらも、レアル・マドリッド、バルセロナと並んで一度も2部に降格したことがない3クラブのうちのひとつで、上記2チームに並ぶファンの絶大な支持を得ているチームでもあります。

また、民族意識の強いビルバオでは、ほぼ全ての住民がビルバオのファンではないかというぐらいに試合の時には盛り上がり、老若男女問わずビルバオのユニフォームを着て聖地サン・マメススタジアムに向かいます（サン・マメスはスペイン最古のスタジアムのひとつとされています）。また同じバスク地方の都市、サン・セバスティアンに本拠地を置くチーム、レアル・ソシエダとのバスクダービーはもちろん大きな盛り上がりを見せるものの、お互いに選手育成で良い関係が作られているため、他のダービーと比較すると友好的なムードのあるダービーとなります。

そんな特徴を持ったアスレティック・ビルバオの成績はというと、昨シーズンのヨーロッパカップでは準優勝を果たし、リーガでも6位につけ好成績で終えています。選手の選考においてかなり限られた中（バスク出身者のみ）で、このような成績を残しているのは素晴らしく（日本で言うところの北海道選抜のチームがヨーロッパで準優勝したようなもの）、ヨーロッパを始め、全世界でその偉業に賞賛の声が上がっています。

このような特徴を持ったチームが世界最高峰のリーグで戦っているのはスペインだけのはずですが、スペインにお越しの際は是非ともサン・マメススタジアムに足を運び、アスレティック・ビルバオファンの溢れ出す思いを肌で感じてみてはいかがでしょうか。

文 尾崎 剛士



尾崎剛士

おさきつよし/
Tsuyoshi Osaki



29歳、愛媛県出身。

2006年まで筑波大学蹴球部に選手、少年サッカー指導者として活動。引退後は大学院に進学、その後就職し、サッカーの現場から2年離れる。2010年から町田高ヶ坂SCにて指導を再開。2011年10月にバレンシアに渡り、アルボラヤUDでサッカーの第二監督として指導を始める。昨シーズンはベンハミン(U-10)を率いて、リーグ優勝を果たす。

バレンシアのスペイン語学校

Costa de Valencia

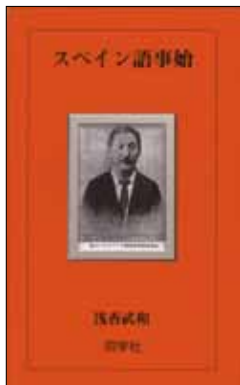
www.costadevalencia.com

E-mail: info@costadevalencia.com



イラスト Jesús Martín Sánchez
jesusmartinsanchez.com

新刊書籍のご紹介



スペイン語事始

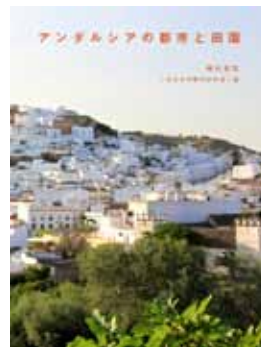
【著者】浅香武和
【出版社】同学社
【定価】1,575円(税込)
【ISBN】9784810202441

今年は、慶長遣欧使節がスペインを訪れてから400年目です。また、「日本におけるスペイン年」と「スペインにおける日本年」の年でもあり、日西友好関係を記念して日本とスペインの両国ではさまざまな催しがあります。

このような社会情勢のなかで出版された本書『スペイン語事始』は、わが国のスペイン語教育および学習の歴史をまとめたものです。日本人とスペイン語の出会い、明治30(1897)年9月高等商業学校附属外国語学校の開校とともに始まり、東京外国語学校にスペイン語科が設けられてから連綿と続く教育の歴史があります。本書は官立の学校における教育史ではなく、民間人によるスペイン語教育の知られざる事実をとりあげたものです。

江戸期にメキシコに漂流してスペイン語を学んだ阿波の漁民初太郎、お雇い外国人ピンダ先生、日本人最初のスペイン語会話書を著した神戸の片桐安吉、メキシコに移民した群馬下仁田出身の篤忠太郎、盛岡出身で日墨協働会社の照井亮次郎、日本殖民学校の酒井市郎、群馬県世良田出身の孤高のスペイン語辞書編纂者村岡玄、横浜のスペイン語教師リカルテと太田兼四郎をとりあげ、彼らがどのようにスペイン語と向き合ったのか述べたものです。

著者 浅香武和



アンダルシアの都市と田園

【著者】陣内秀信+法政大学
陣内研究室：編
【出版社】鹿島出版会
【定価】3,675円(税込)
【ISBN】9784306045835

スペインの中で最もスペインらしいところは、なんといってもアンダルシアである。

さて、本書は、アンダルシアの二つの町、アルコス・デ・ラ・フロンテーラとカサレスの歴史的な成り立ち、都市形成と都市構成、住宅様式、住民性、都市と田園の関係などを6年間かけて現地調査した成果を発表したものである。

アルコスは、アラブ・イスラームの価値観と西欧的価値観が混合した建築が見られる。伝統的にアラブ・イスラーム都市では同族が一つの住宅で生活していたが、現在では非血族の複数家族が中庭を囲んで生活する集合住宅化している。また、アルコスの中庭的住宅は、セビージャの中庭とは異なり、プライバシーを尊重し、空間の閉鎖性を高めるようになっている。

一方、カサレスは、高台にあるイスラームの要塞を頂点として、丘陵の谷間を縫うように住宅が隣接し、中庭的住宅ではない。かつては、近くの世界的名リゾート地であるコスタ・デル・ソルに出稼ぎに大挙して行き、過疎地となってしまったが、最近はヨーロッパ各地からやってくる「グリーン・ツーリズム」で賑いを見せている。

また、住民の自宅に対する意識としては、アルコスの住民は自分の家に誇りを持っているが、カサレスの場合は、敷地の狭さからくるのだろうが、利便性に腐心しているようである。

それにしても、建築や都市計画に特化したユニークなテーマの本である。

評者 川成洋



スペイン王権史

【著者】川成洋／坂東省次／桑原真夫 著 【出版社】中央公論新社
【定価】2415円(税込) 【ISBN】9784121100122

スペインの王室は、国民にとっても親しみを持たれている。現国王ファン・カルロス一世の人気の背景には、その人間味——決して平坦ではなかった彼の人生への共感があるのではないだろうか。王室の歴史とはすなわち国の歴史であることから推察できるように、ここに至るまでには、スペイン王室も激動の波にさらされている。

本書は、スペイン統一を果たしたカトリック両王の時代から、ハプスブルグ朝、ブルボン朝と継承されていく王権の流れを追いつつ、各国王を中心とした人間模様を活写する。そこから「スペイン」という国の姿が浮き上がってくる、これまでになかった内容となっている。構成の点で特徴的なのは、共和制の時代と内戦、フランコ独裁時代が詳細に記されていることだ。この四十数年間は国王不在のため、一見、本書の主題である「王権史」とは離れるようだが、これらは、スペインの歴史において重大な意味を持つのみならず、フランコの死後、民主主義とともに確立された現王室を語る上でも、大いに生きてくるのである。

複雑な歴史を扱っているにもかかわらず、明快な筆致で、大河小説のように興奮しながら一気に読み進むことができる、幅広い層にお薦めしたい1冊だ。

評者 下山静香

チンチョン伯爵夫人 (その2)

1800年3月、マドリッドのゴディ宰相の宮殿。フランシスコ・ゴヤが新たな肖像画のスケッチを始めていた。ゴヤの視線の向こうには、メランコリックで内向的で臆病なマリア・テレサ・デ・ブルボンがポーズをとっている。二十歳の誕生日を迎えたマリア・テレサは妊娠している。彼女はその後、スペインから遠く離れた異国の地で不幸な生涯を終える。彼女から寡黙な表情が消えることはなかった。

眼差しを失ったこの女性は、1735年に伯父のカルロス3世が、自分を母親から引き離してトレドのサクラメント修道院に監禁したことを思い出していたのであろうか。この専制君主は王位継承の時期が来たとき、自分の弟であるドン・ルイス親王(マリア・テレサの父親)の干渉を受けることを恐れた。次の王は自分の子供であるカルロス4世に決めていたのであるが。

トレドの修道院でマリア・テレサは12年の歳月を過ごした。彼女の将来は修道女になることしかなかった。宮廷に戻るなどあり得ないことであった。ところが突然、彼女が17歳のとき、従兄であるカルロス4世の王妃マリア・ルイサにより王宮に呼ばれるのである。王妃マリア・ルイサは彼女の愛人である宰相ゴディに箔をつけてやるため、ブルボン家の血をひくマリア・テレサをその妃にすることを思いついたのであった。しかもゴディには終生の愛人ペピータ・トゥドーがいた(1829年パリで正式に結婚)。まさに政略結婚である。

こうしてマリア・テレサは1797年10月2日にエル・エスコリアルでゴディとの結婚式を挙げた。17歳の娘マリア・テレサにとってこの結婚は、それまでの幽閉生活から抜け出せ、晴れて肉親たちにも会える、しかも結婚相手は時の宰相ゴディであり、幸せに胸膨らませていたであろう。

ところが生々しい現実とは無縁であつたうぶな娘は、結婚とともにその非情な大人の世界を知る。王妃の間男に箔をつけるためだけの結婚、夢見た暖かい家庭生活とは無縁な日常が待っていた。1800年4月末に漸くその肖像画が出来上がる。肖像画の女性のお腹にはすでにゴディの子供が宿っている。数ヵ月後に生まれるゴディの唯一の娘は国王夫妻からカロリータ・ルイサ(カロリータが国王のカルロスから、ルイサが王妃のマリア・ルイサからの命名)の名を授かることになる。一説によると、母親はこの娘を見ると、忌み嫌っていた夫ゴディを思い出しますので、娘を見るのが辛かったという。

2000年2月。マドリッドのサラマンカ地区のエレガントな建物にはこれといった警報装置はない。その建物のなかには芸術品で一杯である。その一角にさりげなく掲げられている絵。保険もかけられていない。紛れもなく200年前にゴヤが描いたあの肖像画である。縦2.16メートル、横1.44メートルの大きな絵画である。このときの所有者の一人エンリケ・ルスポリ氏。64歳、独身にしてバニャーレス伯爵且つ哲学専門の教授である。

この絵は40億ペセタ(当時の為替レートで約120億円)でブラド美術館に売られたばかりである。もうすぐこの館から消える運命にある。ルスポリ氏は嘆く。「ご先祖さまのこの絵は売るべきではなかった。しかし、相続税が6億ペセタもかかってくる。払えるわけがないのだ。国外で売れば当然巨額の高値がつくが、芸術遺産に指定されているこの絵は国外には持ち出せない。だから仕方なくブラド美術館に売ったのだ。」

ルスポリ氏はチンチョン伯爵夫人の系譜に属する。この絵の所有権は兄弟3人が持っていた。バニャーレス伯爵のエンリケ・ルスポリ氏、スエカ公爵のカルロス・ルスポリ、ボアディージャ侯爵のルイス・ルスポリ。遡ればフェリーペ5世。れっきとした王族の一族である。

これに対し、宰相マヌエル・ゴディの家柄ははっきりしない。エストレマドゥーラ出身の地方貴族とも、豚飼いだつたとも言われる。ゴディは出世、成金術に関しては右に出るものがいなかった。17歳で国王の護衛隊としてマドリッドにやってきた。本能ともいえる政治的勘と、カルロス4世とその妻マリア・ルイサからの寵愛を得て、たった10年でスペイン最強

の男となった。

その権力によりゴディは多くの美術品を蒐集した。ゴディコレクションと呼ばれる。絵画の数は1100点にのぼり、ティツェンのコレクションを上回ると言われた。ティツァーノ、ヴァン・ダイク、ラファエル、コレージオ、リベラ、ムリーリョなどが並んでいた。そしてゴヤの『着衣のマハ』と『裸のマハ』。ペラスケスの『鏡のビエナス』と『キリストの磔刑』。

ゴディが権力の座から滑り落ちるのも速かった。ゴディがその妻マリア・テレサの肖像画をゴヤに描かせた8年後にアランフェスの暴動が起きる。ゴディはカルロス4世夫妻とともに失墜、国外に亡命することとなる。そしてカルロス4世の長男のフェルナンド7世が新国王となる。早速、かねてからの敵であるゴディの財産を押収する政令を発する。続いてナポレオンのフランス軍がスペインを占領し、それに対する独立戦争が勃発する。フランス軍が撤退したあとゴディコレクションの1100点の絵画は381点しか残っていなかった。残りはすべて盗まれるか破壊されたか、横流しされた。残された絵画のうち100点ほどは1813年にチンチョン伯爵夫人の手に返された。何とその中にあのゴヤが描いた肖像画が奇跡的にあった!残りの200点以上はマドリッドの王立サン・フェルナンド美術アカデミーに運ばれ、この美術館の由来となっている。

ゴディコレクションから散逸した絵画は世界の美術館に分散している。収蔵数が最も多いのはマドリッドの王立サン・フェルナンド美術アカデミーとブラド美術館。そしてサンクトペテルベルグのエルミタージュ美術館、ロンドンのナショナルギャラリー。他にミュンヘン、アントワープ、ブリュッセル、ブタペスト、ダラス、ヒューストン、シカゴにもある。

さて、絵画を取り戻せたチンチョン伯爵夫人は、それらを(勿論彼女の肖像画も)マドリッドから15キロほど離れた所にある、一族にとって宝の館ともいえるボアディージャ・デル・モンテ宮殿に移した。しかし、専制君主として返り咲いたフェルナンド7世が、マリア・テレサが身を寄せていたトレドの枢機卿である弟ルイス・マリアを幽閉するに及び、1820年に母親の故郷サラゴサに一時的に逃げ延びる。1823年には弟が亡くなり、妹の住むパリに亡命した。

この間、フェルナンド7世により王族と結婚することを許されなかったマリア・テレサの一人娘カロリータ・ルイサは、1821年にイタリアの貴族カミーロ・ルスポリと結婚する。こうしてチンチョン伯爵夫人の系譜はルスポリ家へと繋がってゆく。そして『チンチョン伯爵夫人』の肖像画の流浪の旅が始まるのである。

(つづく)

文 桑原真夫



「フランシスコ・ゴヤの肖像画」(1826年、ヴィセンテ・ロペス・イ・ボルターニャ画) 油彩、93×75cm、ブラド美術館蔵



桑原真夫

くわばらまさお / Masao Kuwabara

詩人、ロサリア・デ・カストロ研究家。広島県鞆の浦出身、北大卒。1977年よりほぼ毎年スペインを訪問。1984年から1989年まで銀行員としてマドリッド支店勤務。ヨーロッパ在勤約14年。スペイン関連著書多数。最新刊に『ルイス・ボソ・ガルサ詩集』(土曜美術社出版販売)、『スペイン王権史』(共著:中央公論新社)。

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介します。

400年の歳月が生んだ絆 ～支倉常長の長い航海の果てに

400年の歳月が生んだ絆 ～支倉常長の長い航海の果てに

2011年3月11日に東日本大震災が発生した数日後に、動画投稿サイトYoutubeにアップロードされた一つの動画がある。"Coria del Río se solidariza con el Pueblo Japonés"。"コリア・デル・リオは日本国民とともにある" (<http://www.youtube.com/watch?v=yD6ntYpvFpQ>)と題されたその動画は、日本スペイン支倉協会会長のファン・フランシスコ・ハボンさんとコリア・デル・リオ市長が支倉常長像に献花している様子と、それを取り囲む人々の姿を映し出している。

セビージャから約15Km南に位置するコリア・デル・リオは、日本にとって非常にゆかりの深い町である。今から四百年前、仙台藩主・伊達政宗の命で派遣された支倉常長率いる慶長遣欧使節が上陸したこの町には、現在でもハボン（スペイン語で「日本」）という姓を名乗る700名もの人々が暮らしている。慶長遣欧使節の子孫たちだ。常長の銅像を囲む人々の表情から、遠い昔からの兄弟である日本国民への深い哀悼の気持ちを読み取ることができる。



慶長18年9月15日（1613年10月28日）、常長の率いる180名ほどの使節団はヌエバ・エスパーニャ（現・メキシコ）をめざし、月ノ浦を出航した。表向きの使命は通商交渉であったが、密かに江戸幕府の打倒を目指し軍事同盟を結ぼうと考える伊達政宗の意図を伝えることにあったとも言われている。一行は同年の12月にアメリカ大陸へ到達、その後大西洋を渡り1614年10月にスペインのコリア・デル・リオに上陸。翌年にはエスパーニャ国王フェリペ3世やローマ教皇パウルス5世に謁見した。

1620年、キリスト教に対し厳しい弾圧が行われるようにな

っていた状況下、遣欧使節団は明確な訪欧の成果も得られないまま人知れず密かに帰国。その二年後、常長は失意のうちにこの世を去る。そしてこの使節団の存在は、明治初期の岩倉具視の欧米訪問まで歴史の表舞台から姿を消すこととなった。しかし、400年の長い時を経て日本とコリア・デル・リオの人々を結びつける絆という、確かな功績を残していることをこの動画が伝えてくれている。



スペイン情報誌

季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5



お問い合わせ先

日西商業会議所 / Cámara de Comercio Hispano Japonesa

www.camarajaponesa.es/jpn

camara@camarajaponesa.es ☎ (+34) 91 851 12 11

✉ Apartado 10124 - 28080 MADRID - SPAIN

大海原

第3章

船ではやった悪い病気は、さらに広がりました。幸運なことに、ディエゴにも私にも、病気がうつることはありませんでした。それでも私達は、用心してキャビンにこもり続けました。ただ、一日に一度だけ、一日分の食料を求めて船室を出ました。

乗客のほとんどは自分のことだけしか考えず、船がどこかの港に着くことを強く願うばかりでした。しかし、実際は、近くに港なんてありませんでした。時々、ひとりの商人が、あわれむようなまなざしで私を見ました。でも、私は話かけることもしませんでした。こんな時に、何ができるでしょうか。実際、私も、こわくてたまりませんでした。でも、無理にでも勇敢にふるまうしかありません。弟のために、そして両親に誓った通り…。

私の心配は、病気のことでばかりではありませんでした。引き返そうと考える乗組員と、どんな犠牲を払ってでも旅を続けたいと考える商人とは、激しい言い争いを重ねていたのです。私は、その言い争いが、血なまぐさい対決に至るのを恐れていました。

何もかも足りない状況をたえしのんでいた上に、ますます激しくなる海の荒れが、新たな重荷となって私達をおそいました。まもなく、ものすごい嵐が起こり、船をクルミの殻のように揺らしました。

ある夜、私達は、恐ろしいほどのシケに遭遇しました。ディエゴは、こわがって私に抱きついてきましたが、私は、ことばをかけることもできず、嵐ができるだけ早く静まるように祈るばかりでした。

その時です。いくつもの叫び声が上がりました。船が壊れ、海水が船に入ってきました。私は、簡易ベッドから飛び起きると、弟の手をつかみました。私にできることは、この状況から脱け出すために、激しく浮き沈みしていたデッキに腕を伸ばすことだけでした。

波は、今にもわれわれを飲み込もうとしていましたし、ひどい雨で、あちこちのようすを探ることすらできませんでした。みんな、死にもの狂いで戦っていました。みんな、助かりたいと必死でした。だれも、私達のことなど気にかけてくれません。もし、船が持ちこたえられなかったら…。そう、私とディエゴをくくりつけて漂う何かを見つけなくては…。私は、ロープで弟と私をくくりつけると、木の樽に結わえました。

大きな船が、大きく傾いて、多くの船員が海に投げ出されました。私には、何がどうなったのかわかりませんでしたが、私達も、同じように海に投げ出されました。その瞬間、痛いほどの冷たさと不快な湿り気が、骨の髄(ずい)までしみこむのを感じました。真っ暗闇の中で、私の意識は、遠のいていきました。

作・イラスト María Parra 校正 Miguel A. Carroza
訳 坂東俊枝



María Parra
マリア・パラ

アストゥリアス出身。32歳。
イラストレーションを学んだが、幼い頃より物語に興味をもつ。近年、文学作品の校正にたずさわる知人のすすめで、作品の執筆をはじめた。





El Aula Virtual de Español (AVE)

como vehículo de conocimiento y difusión de la lengua española

La educación ha sido uno de los motores de la innovación tecnológica desde los albores de la humanidad y, por tanto, del propio progreso en el conocimiento humano. En este sentido, el Instituto Cervantes, como institución oficial española para la difusión del español y de la cultura hispánica, desarrolló un entorno virtual de aprendizaje, que con una simple conexión de Internet de banda ancha y un equipo informático estándar, proporciona la oportunidad de estudiar español a cualquier individuo con voluntad de hacerlo. El objetivo principal fue que la lengua española contara con un aliado, que se ha convertido en uno de los medios más rápidos para la transmisión de información y conocimiento en tiempo real: Internet y que esta alianza propiciara el conocimiento de la lengua común de 21 países, que va camino de los 500 millones de hablantes, y de sus diferentes expresiones culturales.

En el pasado era necesaria la figura de un profesor in situ para la transmisión del conocimiento de una lengua extranjera. Este último debía estar recogido en programaciones, actividades de aula y un sistema de evaluación creíble, para que el alumno fuera consciente de los contenidos que debía asimilar, contara con actividades durante el aula para conseguir asimilarlos y adquirirlos y, finalmente o paralelamente, de un sistema de evaluación que indicara el grado de consecución de los objetivos planteados en las programaciones. Desde la aparición del Aula Virtual de Español (AVE), se ha hecho un poco menos necesaria la presencia física del profesor de español, reforzando todos los elementos mencionados anteriormente, con el fin de que los alumnos que quieran estudiar español, de una forma más autónoma, cuenten con todas las herramientas disponibles a su alcance.

Como no podía ser menos, este entorno de aprendizaje posee una estructura de cursos, dividida por niveles, según el Plan Curricular de Instituto Cervantes (PCIC) y el Marco Común Europeo de Referencia. Por ello, cualquier alumno puede realizar un curso en los siguientes niveles: A1, A2, B1, B2 y C1

Además, cada uno de los cursos del Aula Virtual de Español (AVE) pone a disposición del usuario:

- **actividades interactivas y multimedia** con muestras reales de lengua y cultura que recogen toda la diversidad y riqueza de los países en los que el español es lengua oficial,

- **herramientas de aprendizaje y comunicación** tales como los foros de discusión, el chat y el correo electrónico, y un completo sistema de **seguimiento y evaluación**.

En Japón estos cursos se comenzaron a ofrecer a los alumnos del Instituto Cervantes como material complementario y de refuerzo a las clases que reciben en el Instituto Cervantes de Tokio desde el año 2009 y, desde el año 2010, se empezó a ofrecer como curso particular con tutor a distancia para aquellos alumnos que así lo desearan.

Los resultados en estos dos años han sido espectaculares (miles de licencias activas en Japón), puesto que diversas universidades han ofrecido este servicio a sus alumnos, bien como material de refuerzo y complementario a sus cursos presenciales, o bien como herramienta didáctica de primer orden en sustitución del típico manual de referencia.

Finalmente, no quiero dejar pasar la oportunidad de agradecer a la Universidad de Sophia; Universidad Meiji Gakuin; Universidad de Hokkaido; Universidad Hosei; Universidad Takushoku; Universidad de Ryukyus su uso continuado en sus departamentos y a las universidades de Aichi, Teikyo y Kioto Gaidai su disposición para que pilotáramos este entorno de aprendizaje tan innovador y que dentro de poco pasará también a ser una herramienta de uso didáctico dentro de sus clases. Todo ello no habría sido posible sin la ayuda de los profesores de español y su denodado esfuerzo en romper tabúes e introducir nuevas tecnologías en pro del conocimiento de la lengua y cultura de todos los países de habla hispana. A todos ellos mi más profundo agradecimiento en el nombre de nuestra institución.

Carlos García de la Santa

カルロス・ガルシア・デ・ラ・サンタ
Jefe de estudios

スペイン国営

セルバンテス文化センター東京

〒102-0085 東京都千代田区六番町2-9セルバンテスビル

Tel 03-5210-1706 (受付時間 火～金／11:00-18:45、土／11:00-14:00、月・日・祝 休み)

Fax 03-5210-1715 E-mail cursos@cervantes.jp <http://cervantes.jp>

VEN AL COLEGIO DELIBES... ¡ SALAMANCA TE ESTÁ ESPERANDO !

コレヒオ デリベスにお越しください。サラマンカがあなたを待っています！

歴史、芸術、学生の街として有名なサラマンカ。
この街では、訛りのないスペイン語が話されているため、
スペイン語を学ぶのにぴったりの環境です。

コレヒオ デリベスの教室で学ぶスペイン語は、サラマンカの通りで耳に
するスペイン語とまったく同じです。ここでは訛りのない美しいスペイン語
を学ぶことができます！

また、サラマンカは大都市の利便性と、小さな街の治安の良さや親しみ
やすい雰囲気の両方を兼ね備えています。

是非、サラマンカへお越しください！

きっとご自分の家にいるような心地よさを感じていただけると思います。



コレヒオ デリベスでは・・・

- 個人カウンセリングや希望に応じた柔軟な対応
- 14種類にも及ぶインテンシブコース(1日4～6レッスン)
- レベルは全14レベル
- 学生は若者からシニア層まで40カ国の国々から
- クラスの人数は最大10名
- 学校が厳選した滞在先(ホームステイ・学生寮・シェアアパート・個人用アパート・ホテル)
- スペイン文化やスポーツなど様々なアクティビティを提供
- エアコン完備の26教室と図書室
- スペイン料理教室

colegiodelibes

Y TÚ... HABLAS ESPAÑOL?

Colegio Delibes
Avda. Italia, 21
37007 Salamanca. España

Tfno: +34 923 120 460
Fax: +34 923 120 489
www.colegiodelibes.com
delibes@colegiodelibes.com

フラメンコスタジオ ルイサ
山内恵子フラメンコクラス

Estudio Luisa

優雅に、激しく、繊細に……
フラメンコの魅力を感じてほしい。

これからフラメンコを始めようとしている方。
興味はあるんだけど、踊れるかどうか心配な方。
以前習っていたけれど……ブランクのある方。
どうぞお気軽にお問い合わせください。

初級～プロまで養成
(直接指導)

生徒募集中!

無料体験レッスン実施中! ※予約制

ご予約・お問い合わせください
———
フラメンコスタジオ ルイサ
TEL./FAX.06-6561-0916
H.P. 090-3675-5718
afrwg309@oct.zaq.ne.jp

◆詳しくは <http://luisa.littlestar.jp> をご覧ください。

SE VENTA EN
San Onofre
スペイン菓子
サン・オノフレ

〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1
TEL095-860-8180 FAX095-860-8181

Vamos a bailar
Flamenco!

徳田悠乃
Yuno Tokuda

Yunoフラメンコ教室
神戸校・姫路校

TEL:090-2701-7952 / 078-797-4303
E-mail:tacon.tacon@docomo.ne.jp

スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを選ける語感を習得。課題文139の日本語・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。



〒162-0805 東京都新宿区矢来町106
Tel. (03)3267-8531 <http://www.daisan-shobo.co.jp>

第三書房

CURSOS DE ESPAÑOL

～スペインとバスク文化の融合の街の伝統校～

- スペイン語一般コース
- スペイン語・インターンシッププログラム
- スペイン語・バスク料理
- スペイン語・サーフィン
- ホームステイ、ルームシェア、迎送サービス等

親切なスタッフと細かなサポート
一年を通して、短期留学から長期留学が可能



info@lacunza.com

www.lacunza.com



International House
San Sebastian



電話応対からプレゼンまで
そのまま使える定形フレーズ満載!

書名: 実践! ビジネススペイン語ハンドブック
ISBN : 978-4-9905766-1-5
定価 : 2800円(税抜き)
発行日 : 2012年10月1日
出版元 : インタースペイン・ブックサービス
著者 : 高木 和子
有限会社インタースペイン代表取締役
ビジネススペイン語インストラクター
グロービス経営大学院大学MBA
監修 : 坂東 省次 京都外国語大学教授

ご注文はセルバンテス書店まで
03-6424-4335 interspain.ocnk.net



確かな技術と音楽する心を育てる
吉川二郎ギター教室
初心者歓迎!

コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタールパ

花屋敷教室(宝塚市)
天満橋教室(大阪市)
東京教室(月1回)
静岡教室(月1回)

ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで

吉川二郎 検索

COLEGIO DE ESPAÑA
Since 1973

www.colegioespana.com
info@colegioespana.com

INTERNATIONAL SPANISH COURSES
Learn Spanish in Salamanca

- ・パラエティー豊かなコース
- ・一年を通して入学可能
- ・シニア歓迎
- ・講師向けトレーニング
- ・資格のあるネイティブ講師陣
- ・アクセスの良い好立地
- ・厳選された宿泊先を紹介

The best option to learn Spanish



Calle Compañía nº 65,
37002 Salamanca, Spain.
Tel: (+34) 923 21 47 88
Fax: (+34) 923 21 87 91

Costa de Valencia
escuela de español

すべてのレベルに対応可能
(初級～教師研修まで)。
1クラス最大8人まで、宿泊施設完備、
毎週アクティビティ有り、
DELE対応授業有り、
サッカー観戦&プレー、お祭り、
綺麗な海、暖かい気候、日本人生徒歓迎。

www.costadevalencia.com
info@costadevalencia.com
Av. Blasco Ibáñez, 66
E-46021 Valencia

Debla
cursos de español
www.debla.com

ESTUDIA ESPAÑOL EN DEBLA CON
VISTAS SOBRE EL MEDITERRÁNEO
ESCUELA CON AMBIENTE
FAMILIAR Y TRATO PERSONALIZADO
1133 AÑOS DE EXPERIENCIA!!

cursos de español

Spanish Communications

(株)スパニッシュコミュニケーションズ

www.spacom.jp

03-5709-9251

スペイン留学.com



「スペイン留学.com」で検索

"Sal y Pimienta"
'Sabor de Pepa'



生徒募集中!

舞踊・カンテ・ギター・パルマと
フラメンコの全てをトップレベルの
指導を行う当教室で始めませんか!
全くの初心者の方から
プロ志望の方まで
入会随時受付中!



ACADEMIA DE FLAMENCO KEIKO ISHIKAWA

石川敬子フラメンコ教室

■ 忍ヶ丘 ■ 大正 ■ 長居 ■ 岐阜

TEL 072-877-6664 URL <http://www.estudiopepa.jp/>

ギター・
カンテクラスは
御大アレグレの
直接指導

スペイン語の語学学校

EUREKA

1988年設立

マドリードの中心街で学ぶ
スペイン語コース



- ・1クラス最大8名
- ・スペイン語集中コース
- ・DELE検定対策コース
- ・全レベル対象
- ・個人サポート
- ・ホストファミリー、個人アパート、
共同アパート
- ・セルバンテス文化センター認定校

EUREKA
ESCUELA
DE ESPAÑOL

Arenal, 26
28013 MADRID
Telf: (+34) 915 488 640
Fax: (+34) 915 482 580
eureka@eurekamadrid.com
www.eurekamadrid.com

イラスト
デザイン
martín sánchez
画家
www.jesumartinsanchez.com
iesusangel@gmail.com

難破船の残した友情
DEL NAUFRAGIO A LA AMISTAD
監督・脚本: ゴンサロ・ロブレド
音楽: エルンスト・レイスグル・制作: 2009年、パチエ株式会社
ドキュメンタリー 60分 スペイン語(日本語字幕) NTSC
税込価格: 3,990円
絶賛好評発売中!
お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!
ADELANTESHOP (アデランテショップ)
URL: www.adelanteshop.jp
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122

スペインタイルの総付け教室
& 手作りタイル販売
スペインタイルアート工房
Tokyo/Osaka/Valencia (Spain)
大阪市西区南堀江 1-20-23-1003
Tel & Fax 06-4390-6545
Email: spaintile@japan.email.ne.jp
<http://homepage1.nifty.com/spaintile/>



共演アーティスト

レメディオス・アマジャ

Remedios Amaya

ニーニョ・ホセーレ & ディエゴ・デル・モラオ

Niño Josele y Diego del Morao

マカリネス / ローラ・デ・モロン

Makarines

Lola de Morón

スペイン日本交流 400 周年記念企画

ファン・デ・ファン フラメンコ

Juan de Juan Flamenco

2013年、待望の日本初演作品“La Voz del Baile(踊りの声)”

ファン・デ・ファンと超一流のアーティストたちが贈る情熱のフラメンコの舞台!!

11月3日 日曜日 京都劇場

11月4日 月曜・祝日 東京 シアター1010 開場 16:00 / 開演 17:00 (両公演とも)

SS席(限定30席) 12,000円 / S席 10,000円 / A席 8,000円 / B席 5,000円

ファン・デ・ファン / photo: Hirohisa Aoyagi

チケット販売・お問い合わせ

●コンフォート企画 株式会社: 電話 075-231-2072 FAX 075-231-5528 または ホームページ <http://www.lostarantos.jp> からお問い合わせください。

プレイガイド

●チケットぴあでの購入方法: ①チケットぴあ電話予約: 0570-02-9999 ②Pコード: 428-871 ③チケットぴあインターネット <http://pia.jp/t>
④チケットぴあ店頭販売: チケットぴあ店舗 / セブン・イレブン / サークルK・サンクス

スペイン語ワールドで — スペイン語 を学ぼう

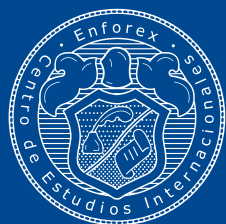
スペインとラテンアメリカ に広がる24の校舎

- ▲毎週月曜日開校
- ▲入門から上級まで全レベル対象
- ▲あらゆるニーズに対応できる20のコース
(長期&短期)
- ▲1クラス平均5名、最高10名の少人数制
- ▲グループには特別料金を適用
- ▲スペイン語講師トレーニングコース
- ▲5歳から18歳対象のサマーキャンプ
参加者の60%はスペイン人学生
- ▲きめ細かなサービス、65カ国から集まる
学生、最新の設備

エンフォレックスで スペイン語ワールドを 体験しよう!



Centro Acreditado



Enforex

ヘッドオフィス

Alberto Aguilera, 26
28015 Madrid - España
Tel.: +34 91 594 37 76
Fax: +34 91 594 51 59
info@enforex.es



スペイン留学.jp
〒530-0001大阪市北区梅田
2-5-8 千代田ビル西別館2F
Tel.: 06 6346 5554
Fax: 06 6110 5122
info@spainryugaku.jp

アリカンテ・バルセロナ・カディス・グラナダ・マドリード・マラガ・マルベージャ・パンブローナ・サラマンカ・セビージャ・テネリフェ・バレンシア・(スペイン)
アルゼンチン・ボリビア・チリ・コスタリカ・キューバ・ドミニカ共和国・エクアドル・ガテマラ・メキシコ・ペルー・(ラテンアメリカ)



Go to
Spain with
Turkish Airlines.
Discover harmony
in diversity.



Turkish Airlines flies you to unique beauties of Spain.
Discover all the ins and outs of it with us.
We are Turkish Airlines, we are globally yours.
turkishairlines.com | +90 212 444 0 849

Globally Yours

**TURKISH
AIRLINES**





スペイン語の本 & 雑貨

www.

adelante
shop.jp

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E. 試験対策本、絵本など
各種取り扱っています。送料全国一律280円
8,000円以上のお買い上げで送料無料!



スペイン語

ADELANTE

www.adelante.jp

Tel: 06-6346-5554

Fax: 06-6110-5122

email: info@adelante.jp

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分です自然なスペイン語をマスター
- ・定員6名までの少人数制グループレッスン
- ・ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ・振替ができるので忙しくても安心
- ・楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ・目的やペースに合わせて選べるコース
(一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・
スペイン語の本を読むコースetc.)

www.adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122

E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

無料体験レッスン随時実施中!
お気軽にお問い合わせください。



www.spainryugaku.jp

スペイン留学.jpは
スペイン留学サポートのエキスパート。

【お問合せ】 TEL: 06-6346-5554 / email: info@spainryugaku.jp

スペイン & 中南米への留学相談、手続き代行無料サービス

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語+フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。
入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

- ・学校への出願サポート
- ・学生ビザ申請書記入のお手伝い
- ・留学費用の海外送金
- ・ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- ・空港出迎えサービスなど、
各種オプションサービスの依頼代行

